２０１１（平成２３）年度

七飯町海外交流研修報告書

アメリカマサチューセッツ州コンコード町　姉妹都市交流事業

七　飯　町

目　　次

・発行にあたって　七飯町長　中　宮　安　一……………………………………1

・海外交流研修参加者　……………………………………………………2

・地　　図　…………………………………………………………………3

・旅　　程　…………………………………………………………………4

・ホストファミリー　………………………………………………………5

・事前事後研修日程…………………………………………………………6

・写真で見る交流研修……………………………………………………7～14

・中高校生レポート　今　本　　南（七飯中学校）…………………15～16
田　中　美　衣（七飯中学校）…………………17～19
髙　橋　大　河（大中山中学校）………………20～23
松　浦　水乃緒（大中山中学校）………………24～26
大　澤　瑠　莞（大沼中学校）…………………27～29
中　村　美　咲（七飯高等学校）………………30～31
池　畑　星里菜（七飯高等学校）………………32～33
小　石　明日美（七飯高等学校）………………34～35

・引率教諭レポート　佐々木　孝　道（七飯高等学校）………………36～39

・町民代表レポート　高　橋　理　沙………………………………40～42
対　馬　明　子………………………………43～46
後　藤　梨　恵………………………………47～50

・随行職員レポート　宮　田　　東（総務課長）……………………51～53
ベン・ミリン（国際交流員）……………………54～55

・七飯町中高校生海外交流研修要綱……………………………………56～57

・七飯町民海外交流研修派遣事業要綱…………………………………58

・新聞掲載状況（北海道新聞・函館新聞）………………………………59～63

七飯町海外交流研修報告書発行にあたって

七飯町長　中宮　安一

コンコード町と七飯町は、１９９７年１１月姉妹都市提携の調印を交わしてから今年で１４周年を迎えました。

この海外交流研修は今年度で１７回目を迎え、９月２３日から１０月４日までの１２日間、コンコード町に、総勢１４名（中学生５名、高校生３名、引率教員１名、一般町民３名、役場職員２名で訪問してまいりました。

また、２０１０年４月には念願でもありました、七飯高等学校とコンコードカーライル高校との姉妹校提携が正式に実現され、これを記念し、七飯高校姉妹校交流訪問団として５９名が参加、総勢７３名という過去最大での訪問となりました。この大きな企画が大成功となったことは、訪問団を受け入れていただくためにご尽力いただいた、トム・カーティン氏をはじめ、ＣＣＮＮ（コンコードカーライル・七飯ネットワーク）のメンバーの皆様、ホームステイを受け入れていただいたたくさんのご家庭の皆様のおかげであり、心より感謝申し上げる次第でございます。

現地では、全員がホームステイを体験させていただき、コンコードカーライル高校コンサートバンドとの合同演奏会も大成功に終える事ができました。

また、学校間交流では一緒に授業に参加したり、ラジオ局、テレビ局での生出演など多くの経験をし、「若草物語」の舞台となったオーチャードハウスや、アメリカ独立戦争発祥の地であるオールドノースブリッジ、ボストン美術館、ハーバード大学やバークリー音楽大学など世界最高峰の大学の校内見学など普通の観光ではできない貴重な体験をさせていただきました。将来を担う若者たちが自分の目や耳で直接体験することは計り知れない良い経験であり、生涯において大変貴重な財産になったことと思います。

町民代表の方につきましても、高校内の太鼓クラブ「夕暮れ太鼓」への練習参加や、小学校訪問で交流を深めるなどとても有意義な時間を過ごさせていただき、姉妹都市交流の目的を十二分に達成してまいりました。

そのために、新たな研修プログラムを用意し、準備に汗を流していただいたコンコードのＣＣＮＮメンバーの皆様には、大変ご苦労をお掛けしたことに改めてお礼を申し上げます。

最後になりますが、来年度、姉妹都市提携から１５周年という記念の年を迎えるにあたり、これまでの姉妹都市交流のあゆみを振り返り、両町がお互いの文化や志を高め、さらには世界平和のためより一層の友好関係が築ける事を希望します。そして、本事業の実施にあたりまして様々な形でご協力くださいました各中学校並びに七飯高等学校、地域、家庭の皆様、そして、心温まる受入れをして下さったコンコード町の皆様に改めて厚くお礼申し上げます。

平成23年度
七飯町海外交流研修参加者

地　　図

バーモント州
ニューハンプシャー州
ニューヨーク州
マサチューセッツ州
セーラム
コンコード
ノーサンプトン
アマースト
ホリヨーク
ウースター
ボストン
大西洋
スプリングフィールド
プリマス
ロードアイランド州
ウェアハム
ファアヘブン
ニューベットフォード
コネチカット州

カナダ
マサチューセッツ州
ニューヨーク
アメリカ合衆国
メキシコ

七飯町中高生海外交流派遣研修訪問団　旅程

日次	月　日	地　名	時刻	交通機関	行　程	食　事
1	9月23日	函館空港	7:15	各自	函館空港出発ﾛﾋﾞｰ集合	
	（金）	函館空港発	8:45	ANA-4782	国内線にて羽田へ	
		羽田空港着	10:10			
		羽田→成田		貸切バス		昼：各自
		成田空港発	15:55	DL-622	飛行時間11時間00分	夕：機内食
					【日付変更線通過】	朝：機内食
		ミネアポリス着	12:55		入国審査あり	昼：機内食
		ミネアポリス発	15:20	DL-1330		
		ボストン着	19:10	スクールバス	着後コンコードへ［ホームステイ］	
		コンコード	20:40		［コンコード泊］	夕：家庭
2	9月24日	コンコード滞在			ホストファミリーと交流	朝：家庭
	（土）				［ホームステイ］	昼：学校
					［コンコード泊］	夕：家庭
3	9月25日	コンコード滞在			ホストファミリーと交流	朝：家庭
	（日）				［ホームステイ］	昼：学校
					［コンコード泊］	夕：家庭
4	9月26日	コンコード滞在			コンコード町内において通学・交流	朝：家庭
	（月）				［ホームステイ］	昼：学校
					［コンコード泊］	夕：家庭
5	9月27日	コンコード滞在			コンコード町内において通学・交流	朝：家庭
	（火）				［ホームステイ］	昼：学校
					［コンコード泊］	夕：家庭
6	9月28日	コンコード滞在			コンコード町内において通学・交流	朝：家庭
	（水）				［ホームステイ］	昼：家庭
					［コンコード泊］	夕：家庭
7	9月29日	コンコード滞在			コンコード町内において通学・交流	朝：家庭
	（木）				［ホームステイ］	昼：家庭
					［コンコード泊］	夕：家庭
8	9月30日	CCHS集合	5:30			
	（金）	コンコード発	7:00	貸切バス	コンコードカーライル高校集合	朝：家庭
		↓			ニューヨークへ	
		ニューヨーク着	13:00	貸切バス	途中休憩（2～3回程度）	昼：レストラン
					ニューヨーク視察	夕：ホテル等
		ホテル着	18:00		［ニューヨーク泊］	
9	10月1日	ニューヨーク滞在		貸切バス	ニューヨーク視察	朝：ホテル等
	（土）					昼：レストラン
					［ニューヨーク泊］	夕：ホテル等
10	10月2日	ホテル発	9:00	貸切バス		朝：ホテル等
	（日）	ニューヨーク（JFK）発	13:20	DL-173	空路、帰国の途へ	昼：各自
					［機中泊］	夕：機内食
11	10月3日	成田空港着	16:50			朝：機内食
	（月）	ホテル着	18:00	送迎バス	【成田ビューホテル】	昼：機内食
					【成田市泊】	夕：弁当（支給）
12	10月4日	成田→羽田	8:00	リムジンバス		朝：ホテル
	（火）	羽田空港発	10:30	ANA-853		昼：各自
		函館空港着	11:50		函館空港にて解散	

平成２３年度七飯町海外交流研修ホストファミリー一覧

滞在者	ホストファミリー	住　　所
今　本　　南	John（ジョン）家 生徒名：Sophie（ソフィー）　１３歳	351 Plainfield Road, Concord MA 01742
田　中　　美　衣	Zeng（ゼン）家 生徒名：Elizabeth（エリザベス）　１５歳	241 Peter Spring Road, Concord MA 01742
高　橋　　大　河	Copeland（コープランド）家 生徒名：Sam（サム）　１６歳	9 Shirley Street, Concord MA 01742
松　浦　　水乃緒	Broggi（ブロギー）家 生徒名：Pilar（ピラー）　１６歳	128 Bedford Street, Concord MA 01742
大　澤　　瑠　莞	Nguyen Hurst（ニュエンハースト）家 生徒名：Gabrielle（ガブリエル）　１６歳	760 Main Street, Concord MA 01742
池　畑　　星里菜	Huberman（ヒューバマン）家 生徒名：Amelia（アミリア）　１６歳	761 Concord Street, Carlisle MA 01741
小　石　　明日美	Matthews（マシューズ）家 生徒名：Kate（ケイト）　１５歳	27 Buckmaster Drive, Concord MA 01742
中　村　　美　咲	Bryant-Ridpath（ブライアントリドパス）家 生徒名：Nathaniel（ナサニエル）　１７歳	175 Conant Street, Concord MA 01742
佐々木　　孝　道	妻：Nancy McJennett（ナンシー マクジェネット ） 夫：Jack Nevison（ジャック ネビソン）	500 Thoreau Street, Concord MA 01742
高　橋　　理　沙	Zellner（ゼルナー）家 妻：Mary（マリー）　夫：Joe（ジョー）	3 Rodney Road, Bedford MA 01730
後　藤　　梨　恵	Erickson（エリクソン）家 妻：Susan（スーザン）　夫：David（デイビッド）	467 Laws Brook Road, Concord MA 01742
対　馬　　明　子	Pettyjohn（ペティージョン）家 妻：Karen（キャレン）　夫：Ron（ロン）	143 Ministerial Drive, Concord MA 01742
宮　田　　東	Joyce（ジョイス）家 妻：Kris（クリス）　夫：Bill（ビル）	646 Main Street, Concord MA 01742
ベン　ミリン	Mirin（ミリン）家 妻：Margie（マーギー）　夫：Steve（スティーブ）	384 Caterina Heights, Concord MA 01742

事　前　研　修　予　定　表

事前研修はコンコード訪問までに意欲や英語力、訪問団員の団結力向上を目的とし実施しました。また、研修の成果を事後研修会において検証しています。

	日　　時	場　　所	内　　容（予定）	参加者
第１回研修会 及び説明会	７月１１日（月） 18:30～20:00	文化センター スターホール	・事業の概要等の説明 ・派遣学生の心得 ・旅程等の説明 ・パスポート手続きについて ・質疑応答	・中高生代 ・町民代表 ・七飯高校
第２回研修会	７月３０日（土） 9:00～12:00	文化センター スペース２０１	・コンコードの概要 （講師：国際交流係長） ・英会話 （講師：ベン・ミリン） ・その他	・中高生代 ・町民代表
第３回研修会	８月６日（土） 13:30～16:30	文化センター スペース２０２	・七飯の歴史について （講師：山田学芸員） ・英会話 （講師：ベン・ミリン） ・その他	・中高生代 ・町民代表
第４回研修会	８月２０日（土） 9:00～12:00	役場２０２会議室	・アメリカの生活について （講師：ベン・ミリン） ・英会話 （講師：ベン・ミリン） ・その他	・中高生代 ・町民代表
第５回研修会	９月１０日（土） 9:00～12:00	役場２０２会議室	・英会話（入国審査等） （講師：ベン・ミリン） ・その他	・中高生代 ・町民代表
壮行式及び 最終説明会	９月１６日（金） 17:00～17:45 （壮行式） 18:30～19:30 （最終説明会）	文化センター スターホール	・壮行式 ・旅程等の最終確認 ・質疑応答	・中高生代 ・町民代表 ・七飯高校
事後研修会	11月10日（木） 18:00～19:00	文化センター スペース２０１	・ 報告会 ・ 事前、事後の心境 ・ ホームステイ体験報告等	・中高生代 ・町民代表

表

表

表

表

表

表

表

写真で見る交流研修

第１回事前研修　事業概要説明会

第１回事前研修　事業概要説明会

第２回事前研修　コンコードの概要等説明

第２回事前研修　ベン先生と英会話練習

第３回事前研修　七飯の歴史を学ぶ

第３回事前研修　ベン先生と英会話

第４回事前研修　ベン先生と英会話

第４回事前研修　ベン先生と英会話

第５回事前研修　ベン先生と英会話

第５回事前研修　ベン先生と英会話

合同壮行式の様子

合同壮行式にて派遣者より一言

合同壮行式にて派遣者より一言

合同壮行式にて派遣者より一言

合同壮行式にて町長より
ホストファミリーへのお土産授与

合同壮行式にて町長より
ホストファミリーへのお土産授与

合同壮行式にて町長、副町長、教育長、各学校長
及び七飯高校姉妹校交流訪問団と合同の記念撮影

函館空港にて出発前の記念撮影

高校前で夜遅くにも関わらず多くの皆さんが出迎えてくれました

高校カフェテリアでホストファミリーと対面式

高校カフェテリアでホストファミリーと対面式

ホストファミリーと町内見学

オーチャードハウス見学

コンコードカーライル高校正門

交流授業の様子

コンコード町教育長やトム・カーティン氏らとの懇談会の様子

演奏会後、高校内のカフェテリアにてダンスパーティー

高校内見学 美術室にて
（左はバダラメント校長）

合同演奏会にて和太鼓披露

合同演奏会の様子

合同演奏会の様子

合同演奏会の様子

和太鼓同好会「夕暮れ太鼓」
の練習に参加

高校内にあるラジオ局
「WIQH」で生出演

ミニットマン像の前で記念撮影

ハーバード大学「ハーバード像」の前で

七飯高校からコンコードカーライル高校へ記念品の贈呈

コンコードカーライル高校から七飯高校へ記念品の贈呈

高校アメリカンフットボール部見学

バークリー音楽大学見学（左から2番目は札幌出身のサックス奏者、寺久保エレナさん）

高校前にてホストファミリーとお別れの朝（朝早くてまだ暗いです）

自由の女神のあるリバティー島で記念撮影

ニューヨーク市立図書館

グランドゼロ跡地見学

自由の女神、ロックフェラーセンター、メトロポリタン美術館など見学

～アメリカ日記～

七飯中学校２年　今本　南

9/23～10/4までの約2週間、私はアメリカでとても貴重な時間を過ごすことができました。カーライル高校に着くと、ホストファミリーと対面しました。「Welcome Minami!!」と書いた紙を持った私のホストファミリーのSophieとホストファザー･マザーがいて、びっくりしました。そして歓迎してくださってすごくうれしかったです。私は言葉が通じるかどうか1番心配していたのですが、私のホストマザーは8年間日本に住んでいたことがあるそうで日本語を話せる方だったので安心しました。ホストファザーもSophieもとてもフレンドリーで話す言葉は違うけど伝えたいことが通じたときはうれしかったしわかりあえたような気がしてたのしかったです。

ホストマザーと Sophie

2日目は午前中にホストファミリーと一緒にショッピングモールに行きました。日本とは比べ物にならないくらい建物が大きくてびっくりしました。私はそこでテディベアを作りました。綿が入っていない状態のテディベアに機械で綿を自分で入れることができます。
昼食は「何人前だ!!??」と思うくらいの量のサラダとフランスパンでアメリカの大きさを痛感しました。

綿を入れる機械

午後は若草物語で有名なところに行き、夜にはピザパーティをしました。ピザが大きくてびっくりしました。家に帰ったあとはショッピングモールで買ったパズルやアメリカのゲームで遊んで楽しかったです。

次の日はホストファミリーとりんご狩りに行ってきました。りんご狩りは初めてでしたがすごく楽しかったです。そのあとカーライル高校のカフェテリアでバーベキューをしました。踊っているときもアメリカ人はすごくノリがよくて楽しかったです。

アメリカの学校では日本と違うところが思っていたよりも結構あって驚きました。一番衝撃的だったのが授業中に飲み食いOKなことです。授業の始まりと終わりの挨拶もありませんでした。黒板はなく、パソコンとつながっている大きいタッチパネルのようなものを使っている教室もありました。

6日目の夜に海外派遣のメンバーとそのホストファミリーでボーリングをしました。日本とはちがって玉が小さかったです。ガーターが出ない設定になっていましたが私は2回くらいガーターを出しました。ガーターは出してしまったけどすくごく楽しかったです。

ホームステイ最終日には七飯高校の人や海外派遣のメンバーでパーティをしました。マシュマロを焼いて食べて凄く美味しかったです。

ホームステイをしている日々は毎日が新鮮で楽しかったので、ホストファミリーと別れるときはとても悲しかったです。本当に最後まで家族のみなさんに優しくしてもらい、約１週間のホームステイはとても幸せでした。
ホストファミリーと別れてからはニューヨークに行きました。最初の日はタイムズスクエアなどに行きました。

自由の女神

次の日は自由の女神を見に行きました。
自由の女神の内部を歩いたりしてとても勉強になったと思います。

私はこの研修で様々なことを体験し、いろいろな面で成長することができたと思います。ホストファミリーのみなさんには、英語が少ししか話せない私を受け入れてくださったことにとても感謝しています。
今回このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

～海外交流研修を終えて～

七飯中学校２年　田中　美衣

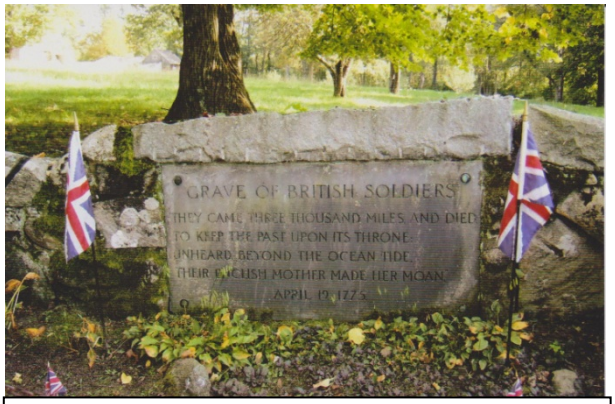
私は今回の海外交流研修でたくさんの貴重な体験をさせていただきました。私にとって海外へ行くのは初めてだったので、アメリカに行けると決まったときは、日本語の通じない場所ですごして行けるのか、不安もありましたが、「早くコンコードに行きたい！」とすごく楽しみでした。そして今回は七飯高校の吹奏楽局さんたちも一緒にアメリカへ行き、コンコード・カーライル高校の生徒さんたちとジョイントコンサートを開催することになっていたのですが、学校で吹奏楽部に所属している私も参加させていただけることになり、とてもうれしかったです。

ホストシスターのエリザベス

コンコード町に着き、ホストファミリーと対面。私を迎えてくれたのは、エリザベスという中国系の女の子でした。車の中では、エリザベスやホストマザーが話しかけてくれましたが、私は何を言っているのかが全然わからず、あまり受け答えをすることができませんでした。そのとき、これからホストファミリーの人達とちゃんとコミュニケーションがとれるのか、とても不安になりました。家に着くと、エリザベスの妹のキャロラインが私を迎えてくれました。キャロラインは背がとても大きくて、私より 20cm 以上も高いのに、まだ 11 歳ときいてビックリしました。その後すぐ部屋に案内されました。部屋はエリザベスと相部屋だったので、部屋でお土産を渡しました。その中でも着物とハイチュウをとくに気に言ってくれました。エリザベスが「着物の着方を教えて！」と言ってくれたので、その日の夜から毎日、私はエリザベスに着物の着方をレクチャーしました。

次の日は朝早く起きてホストマザーの運転する車で学校へ向かいました。この日は、午前中は七飯高校さん・CCHSB のみなさんとの合同練習に参加させていただきました。すごい音の迫力で、とても感動しました。午後からは若草物語の作者が住んでいた家に行ったり、ホストファミリーと一緒にアイスクリーム屋さんやクッキー屋さんに行きました。アイスクリームのサイズは、large・medium・kiddie の 3 種類で、私は kiddie のサイズを頼みました。このサイズは 3 つの中で一番小さくて、kiddie というのは、子供という意味なのに、日本でいう M サイズの大きさでびっくりしました。その日の夜は 4 家族合同でピザパーティーもあって、とても楽しい一

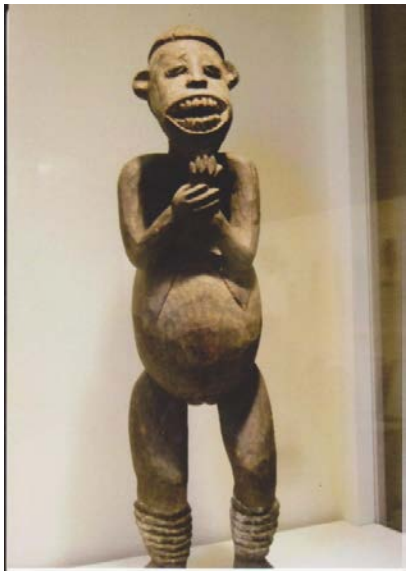
日でした。次の日にも、CCHS でパーティーがあり、音楽がかかってみんなでおどりました。最後にイカおどりもおどりました。3 日目にジョイントコンサート（コミュニティーコンサート）と、4 日目に全校向けコンサートがあって私もそれに出演させていただきました。この 2 日間は、私にとって、これからの部活動に生かせる、大変貴重な経験でした。たくさん他のバンドの音を聴くことができ、吸収することがとても多かった 2 日間でした。4 日目は、他の研修生と一緒にトイショップや、チョコレート屋さんに行きました。そして、私が行きたかった、オールド・ノース・ブリッジにも行きました。この日は天気も良く、あたたかかったのでとても気持ちよかったです。橋を渡っていると、水の上をカヌーやボートに乗っている人がいました。その人達は、みんな上半身裸で、その上にライフジャケットを着ていました。夜には、3 家族でショッピングモールへ行きました。そこでエリザベスが私にピンクと赤のマニキュアをプレゼントしてくれ、とってもうれしかったです！5 日目はエリザベスと一緒に数学の授業を受け、ラジオにも出演しました！ラジオは日本にも流れるそうなのですごく緊張しました。でも、とても貴重な体験ができました。この日は、ハーバード大学にも行きました。6 日目は、ボストン美術館に行き、いろんな絵や展示物を見てきました。その日の夜はボーリングパーティーもありました。ボーリングは日本とちがい、球も小さく、ガターレーンもありませんでした。それなのに、私はガターを連発してしまい、他の人よりもかなりスコアの点数が低かったです・・・。最終日の 7 日目は、朝からバークリー大学とクインシーマーケットへ行きました。バークリー大学では、SAX の有名な演奏家の寺久保エレナさんの生演奏を聴くことができました。クインシーマーケットで食べた、ハンバーガーは私の顔より大きくてとてもおどろきました。その日の夜は、私が日本から持ってきたご飯でおにぎりを作り、そばをゆでて食べました。その日は、パーティーがあり、お腹いっぱい食べたはずなのに、エリザベスとキャロライン、ホストマザーは喜んで食べてくれました。すごくうれしかったです。そして、その日の夜、エリザベスが自分で着物を着られるようになりました！！2 人でとびはねて喜んだのを今でも覚えています。私がコンコードで過ごした 7 日間はとても楽しい思い出となりました。エリザベスとの別れはとても悲しかったですが、「また会おうね！」と約束して別れました。エリザベスと私はこの 7 日間ですごく強い絆で結ばれたと思います。



オールド・ノース・ブリッジにて

その後はニューヨークに2泊もしました。高いビルが立ち並び、テレビで何回も見たことのある、タイムズスクエアや自由の女神、エンパイアステートビル、グラウンドゼロなどを観光しました。セントラルパークはバスで通っただけですが、あまりの広さにおどろきました。FOREVER21で買い物をしたり、テディベアも作りました。とても楽しかったです。

今回の研修で、アメリカと日本の食文化の違いや、暮らしの違いなど、たくさんの違いがあることを実感しました。そして、言葉は通じなくても、表情や身振り手振りで思ったことを伝えることができるということは､本当なんだなと思いました。伝えようとすれば必ず相手には伝わります。それに、音楽は言葉が通じなくても、人々に感動を与えることができるし、楽しさを共有することもできます。私は今回の研修を通して学んだ様々な経験を､これからの学校生活で生かして行きたいです。今回このような機会を与えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



ボストン美術館でのお気に入り！

～「七飯町海外交流派遣」を終えて～

大中山中学校２年　髙橋　大河

今回、アメリカ・マサチューセッツ州・コンコード町に９月２３日から１０月４日まで、町の海外派遣生徒として参加させていただきました。

応募した動機は、昨年カーライル高校の生徒のホストファミリーとなり、もっとたくさんの人と係わってみたいと思ったからです。初めて身近に接し、慣れないことばかりで緊張のあまりコミュニケーションもあまり取れなかったように思います。でも、最後の夜に姉の友達も呼んでパーティを開いたとき、言葉では難しいけれど、楽しいことは心で通じるということを実感しました。そして東日本大震災のあと僕たちのことを心配し連絡をくれ、チャリティーコンサートを開いてくれたこともメールで知らせてくれました。同じ日本人の僕たちでさえ、どうしたら良いのかわからない状況の中で、すぐに行動を起こしてくれたことに驚きました。そして、どうしても彼女にお礼を直接言いたいと思いました。決して楽しいことではないけれど、心に感じるものはアメリカも日本も関係ないと感じました。

僕のホストファミリーは４人家族でサム君とサム君のご両親とお姉さんです。ペットには犬１匹と鳥２羽を飼っていました。とてもやさしくしてもらい、毎朝、日本茶をだしてくれましたしおいしい料理も沢山作ってくれました。サム君の家での最初の食事では、僕のために特別にライスを用意してくれたほどです。他にも僕のために僕のためのパソコンを用意してくれてインターネットにつないでくれました。そのおかげで日本の友達ともメールをすることができました。サム君は作詞、作曲が趣味で自作の CD を作っていました。ＹｏｕＴｕｂｅにも投稿しています。ニューヨークに出発する日、サム君の作った CD を貰いました。サム君のお父さんはサム君が勉強している間、ずっとぼくのゲームの相手をしてくれました。そして、僕がさびしくならないように面白い話をしてくれました。残念だったのが、サム君のお姉さんに会えなかった事です。お姉さん

ホストファミリーと。お父さん、お母さん、僕、サム君（左から）
呼び方は、みんな名前で呼び合いました。お母さんの手料理はとてもおいしかったです。

は今、オハイオ州の大学へ行っていて離れて暮らしています。

僕はアメリカに行ったらハンバーガーを食べてみたいと思っていました。９月１６日の壮行式の時にハンバーガーの話題が出てからずっと思っていました。とても食べたかったのでサム君のお母さんにお願いすると２日目に連れて行ってくれました。実際に食べてみると、とても大きいし、とても脂っこかったです。日本の人たちは「出されたものはちゃんと食べなければ失礼」と思う人たちがたくさんいると思いますが、アメリカの人たちは普通に食べ切れなかったら残していたのでびっくりしました。僕がお腹がきつく脂っこくて食べ切れそうもないと思っていた時にサム君のお父さんが、「ハンバーガーを残してもいいんだよ」と言ってくれたので、助かりました。

うわさのハンバーガー！
チーズバーガーにベーコントッピング。ポテトは付いてます。
パテが脂っこく、やっぱり日本のハンバーガーが一番！

その帰り道の事、サム君のお母さんに「歩いて帰ったらどう？」と言われました。お腹がいっぱいでとても歩けそうになかったのですが、僕の性格上、断ることができませんでした。歩きながらお土産のことを思い出したので伝えたら、食べ物か洋服どっちがいい？と聞かれ、僕は「food」と言ったのですがサム君たちには「hood」と聞こえたらしく「洋服なの？」と聞かれ、「食べ物です。」と答えてもやっぱり「hood」と聞こえたそうです。このまま僕が言っても「らち」があかないので最終手段の翻訳機を使いスーパーマーケットに連れて行ってもらうことにしました。もうちょっと英語の発音を勉強しておけば良かったと思いました。

アメリカでは日本との違いがたくさんありました。スーパーマーケットでは驚くようなものが沢山ありました。例えばとても大きなプラスチックの容器に入っているりんごジュースやお肉の塊。特に驚いたのは日本食のコーナーにあった食べ物で、日本人から見れば日本の食べ物とは思えないものもありました。他にも別に驚きはしないけれど気になるものもありました。それは、「７．００／２」と書いているものです。とても気になったので、サムのお父さんに聞いてみると「これは２個買えば７ドルで買うことができるよ。」と教えてくれました。そもそも僕は、１ドルが高いのか安いのかがあまりよくわからず。「７ドル・・・高いかもしれない」と思いながらもお土産として買いました。アメリカに滞在して４日目を過ぎたあたりでやっと金銭感覚がついてきました。

到着した翌日からぼくは学校に行きました。学校には広くて立派なコンサートホールがあり、そこで七飯高校の吹奏楽局とＣＣＨＳが合同演奏会を開きました。コンサートはたくさんの人たちが来てスタンディングオーベーションがおきる程、大成功したと思います。僕は初めてだったので戸惑いながらも立ちながら拍手をしました。もちろん、その舞台の上にいる僕の姉とサム君のために。

カーライル高校の学校の図書室はとても広く図書館と言ってもいいぐらいの広さでした。また、学校の中にはラジオ局があり、今回特別に僕たちも出演させていただきました。ラジオの機材は本格的でびっくりしました。日本の音楽を自分たちで選曲し流してもらいましたが、コンコードの人たちに受け入れられたかどうか心配でした。

数学の授業では日本のように先生の説明を聞いてから問題を解きました。日本と違う点は生徒たちが自由に教室を出て飲み物などを買いに行くことです。日本では、ありえないことです。僕たちが普段家庭学習をしている時に、お茶を飲みながら勉強する感覚かもしれません。

コンコードの自然はとても美しかったです。野生のリスがいたる所にいて、手を延ばすとすぐにでも触れることができそうでした。でも実際には賢いしすばしっこいので触ることは無理でした。サム君の家の裏には野生のリスの巣があり毎朝姿を見ることができましたし、近くの川にはワニガメがいて、頭と甲羅を出して泳いでいるのが確認できました。七飯町も自然は豊かですが自然の動物と触れ合うことは少ないです。だからコンコードがうらやましいと思いました。ただ蚊が多くてじんましんかと間違うほど悩まされました。

ニューヨークへ出発の日、僕はホストファミリーと離れるのがとてもさびしかったです。またコンコードへ来たいと思いましたし、ぜひサム君に日本へ来てほしいと思いました。日本から筆ペンで書いた手紙を持って行き別れる前に渡すと、とても驚いていました。そして「ありがとう」と笑ってハグしてくれました。こんなに長い日数、僕を迎えてくれたホストファミリーにとても感謝しています。そして、アメリカにも家族ができたような気持ちです。

ニューヨークでは、キングコングの映画に出てきたエンパイア・ステート・ビルに登りました。待ち時間がとても長く、登る前にへとへとになってしまいしました。展望台まで登るととっても高く、そこから見た景色は車もゴマみたいに小さく見えました。

自由の女神を見にいった時には「さすがアメリカの象徴」と言うオーラが伝わってきました。中の構造を見た時に形が変わらないようにいろいろと工夫がされていたので工夫って大事だなと思いました。

グランドゼロでは平和の大切さを改めて感じました。テロでも震災でも

犠牲になることはつらいことです。今こうして平和の中にいる僕は、しっかりと将来平和のために少しでも貢献できれば良いと思いました。

今回、僕は七飯町の海外派遣生徒として参加させていただき感謝しています。僕が経験したことは今までの中で一番に等しいほど貴重な体験でした。同じ町内に住んでいながら、今回初めて会って仲良くなった人たちもいるのに、アメリカという離れた国でたくさんの人に出会えたことは奇跡に近いかもしれません。僕はこれからもっともっと学んで世界の中の一人として活躍できればいいなと思います。一緒に行ってくれた皆さんありがとうございました。

～海外交流研修を振り返って～

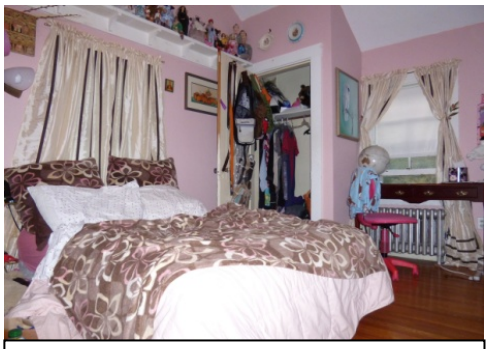
大中山中学校２年　松浦　水乃緒

今回海外交流研修に参加させてもらい、中学生では体験できないようなことをたくさん体験してきました。

函館空港を出発し、羽田、成田、アメリカへと１８時間ほどのフライトでした。アメリカに着いたときはホームステイに対しての期待でいっぱいです。コンコードに着いたのは現地時間で２３日の夜８時ぐらいでした。コンコードカーライルハイスクール（ＣＣＨＳ）のカフェテリアでホストファミリーとの対面式を行い、その日は時間も遅かったのですぐ家に行き、ベッドに入りました。

【２４日】

ホームステイ先のピラーとショッピングモールに行きました。お昼にはサンドイッチを食べたのですが、サイズを頼むときにピラーがスモールを頼んでくれたのです。日本人からするとそれでも大きくて全部は食べきれませんでした。ショッピングモールでは服を見たりしました。お店に入ると必ず店員の方が「Can I help you?」と言ってくれ、親切だなと思いました。その後にオーチャードハウスに行き、ルイザ・メイ・オルコットについて学びました。住んでいたという家は今でも綺麗でした。


ホームステイした部屋

それからソフィのお母さんの提案でソフィの家に遊びに行きました。ピラーは用事があって来れないらしく、私だけが行きました。みなみちゃんがホームステイしているソフィの家で遊んでいるとソフィのお母さんに唐突に「行くよ」と言われ、私とみなみちゃんは全くどこにいくかもわかりませんでしたが、車で連れて行かれたのはサムの家でした。サムの家ではみんなでピザを食べたのですが、あまりの大きさにピザ一切れでおなか一杯になってしまいました。ピザを食べた後はみんなでゲームをしたり、映画を見たりととても楽しかったです！

【２５日】

午前中はピラーと一緒に家でテレビを見ました。スポンジボブと iCarly を見ました。アニメのスポンジボブは、英語がわからなくても話が大体はわかるのでおもしろかったです。

そのあと七飯高校と CCHS の吹奏楽部の合同コンサートが学校のホール

でありました。そこでは和太鼓の演奏もあり、とても迫力があり、すごかったです。小さい子から年配の方まで楽しんでいて、音楽はすごいなと思いました。

コンサートが終わってからはカフェテリアでみんなで踊りました！アメリカの人はみんな踊る事が好きで、音楽がかかるとすぐ踊りだします。みんな好きなように踊っていて、とても楽しかったです。

【２６日】

ピラーのクラスへ行き、英語の授業を一緒に受けました。Scarlet Letter というところをやりましたが、問題文が読めなくて私には全くわかりませんでした。

夜にはみいちゃんとるいちゃんとホストファミリーの方々とショッピングモールへ行きました。るいちゃんのホストファミリーのギャビーは日本語が少し話せるので、通訳してもらいとても助かりました。

バンドルームにて

【２７日】

この日は英語の授業とスペイン語の授業を受けました。アメリカの学校は英語の授業はもちろんありますが、他にもスペイン語や中国語もあるそうです。授業では電子黒板を使っていました。授業中にジュースを飲んだり、お菓子を食べたりしているのには驚きました。また、CCHS の中にはラジオ局があり、そこでラジオ番組に出演させてもらい、日本の音楽を流したり、コンコードの感想などを話してきました。

ハーバード大学に行きました。敷地が広く、木がたくさんあり、とても良いところでした。図書館も大きくて勉強しやすそうな環境でした。そしてジョン・ハーバードの像の前でジョン・ハーバードの三つの嘘を教えてもらいました。三つの嘘のことは調べてみてください。

ジョン・ハーバード像

【２８日】

ミュージアムに行きました。ミュージアムはとても広く、数時間では見て回れないほどでした。私でも知っている画家の作品もあり、とても興奮しました。その後のクインシーマーケットでは、メイがお店を探してくれたり、ギャビーが通訳してくれるなどいろんな人が助けてくれました。

夜にはボーリングに行きました。日本の物とは違い、ボーリングの玉に

は指を入れる穴がなく、小さめで投げやすかったです。
【２９日】
夜にコンコードの人たちとパーティーをしました。わざわざ日本食のお味噌汁を作って用意してくれていて嬉しかったです。その他にもマシュマロを棒に刺して焼いて食べたり、ソフィ達とサッカーで遊んだりするなど楽しい時間を過ごしました。
家に帰ってからはホストファミリーと日本の番犬注意というゲームで遊んでいました。電池が切れているのか、あまり反応しなかったけどみんな笑っていて楽しかったです。
【３０日】
ホストファミリーと別れる日が来ました。バスに乗る直前にピラーに「Thank you for everything.」としか言えませんでした。たくさん伝えたかった事はあったはずなのですが、言葉が出ず伝えられませんでした。英語をもっと学んで、またピラーに会いたいと思いました。
【ニューヨーク】
ニューヨークではエンパイヤーステートビルに行き、ニューヨークの街を眺めました。テレビで見たことのある建物がたくさんあり、不思議な感じがしました。そして自由の女神にも行きました。像の内部には以前使用していた顔や足もあり、とても大きくて驚きました。
【あとがき】
今回コンコードにホームステイさせてもらい、アメリカの生活を体験しました。戸惑う事も多かったのですが、楽しんで生活するアメリカ人の日常に触れることができました。実際にアメリカに渡らないとわからないようなこともたくさんあり、今回参加できて本当に良い経験をさせてもらったと思っています。
七飯町のみなさん、コンコードのみなさん。本当にありがとうございました。

～海外交流研修を終えて～

大沼中学校２年　大澤　瑠莞

この研修が決まった時は、めったに経験できない貴重な体験ができるという嬉しさと同時に、これから立ち向かうべき、様々な「初めて」にとても大きな不安を抱いていました。一番の不安は「英語」でした。私は英語が得意ではなく、とても話せる気がしなかったのです。

アメリカに着くと、途端に景色が一変して英語ばかりだったので、今までの「泊まるのはもう何回も経験済みだから大丈夫」とか、「ジェスチャーで通じるだろう」などという考えはまったく跡形もなく消え去ってしまい、カーライル高校に着くまでは、まさかこんなに楽しい研修になるとは思いもしませんでした。

カーライル高校ではたくさんのホストファミリーの人達と出会いました。私のホストファミリーの子は、日本語を話せる方だったので、会ってすぐにたくさんの人と話をする事ができ、私と趣味が同じという事もあり、どんどん仲良くなる事ができました。

ホストファミリーと

私のホストファミリーは、母の Rose さんと、娘の Gabrielle さん（先程の人。ギャビンと呼びました）、犬の Tucker というとても仲の良い二人と一匹で、特にギャビンは、年の差も気にせず、大好きなアニメやマンガ、アメリカの生活など色々な事を教えてくれました。少しでも私が楽しめるようにと気遣ってくれて、私はこの人がすごく好きになりました。

家に着いた時にまず驚いたのがお家の中がとても広くて、様々な部屋があったことです。映画を見るためだけの部屋や、バスルームが三つもあったり、地下に専用のカウンターがあったり、日本ではあまりみないものがたくさんあって驚きました。部屋を見た後は、シャワーを借り、「今日はゆっくり寝て明日からいろんな事をしよう」と言われて寝ました。就寝前に時計を見ると、まだ日本では朝の九時から十時頃だったので、急に眠くなってあっという間に寝てしまいました。

次の日から、私はギャビンと学校に通い始めました。私は吹奏楽部だったので今回、アルトサックスで合同演奏に加えさせて戴きました。チューニングの基準がちがったり、強弱のつけ方がハッキリしていてとても勉強になりました。その日は、若草物語の作者、ルイーザさんの劇を見たり、とても楽しかったです。

九月二十五日、コミュニティーコンサートがありました。日本では高校のみなさんと何度か練習をさせてもらい、そのおかげで、本番は大成功でした。ここでは、立って拍手してもらい、初めてだったので感激しました。

コンコードの人達の演奏も、音がきれいで楽器を吹いている後ろからシャボン玉をとばしたりと､面白いアイディアで参考にする事がたくさんあってわくわくして、太鼓も、そろっていて、声も出せたのでとても嬉しかったです。

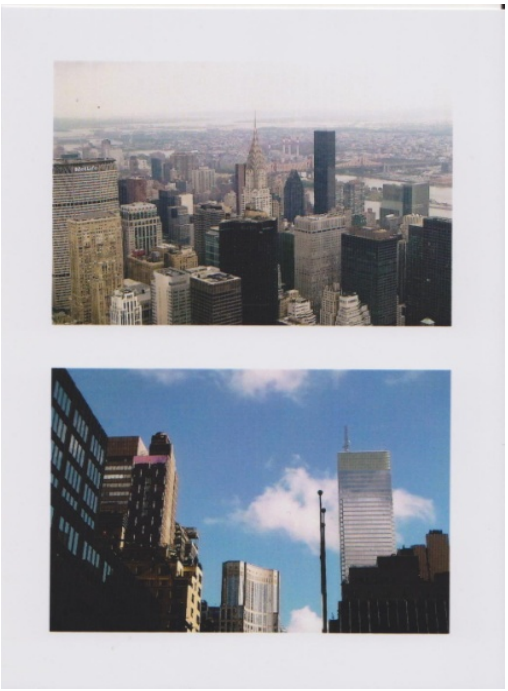
その後行われたバーベキューや交流でも、みんなすごく楽しそうで、私もとても楽しくて、本当にアメリカに来てよかったと思いました。

コンサート二日目ではギャビンも来てくれてこちらも成功して良かったです。

その後、バンドルームで初めてアメリカのアイスを食べて、日本より甘かったので沢山食べてしまいました。そして、オールドノースブリッジなどを見学して帰りました。その後、ローズさんがボストンに連れて行ってくれて、そこでロブスターやジェラートを食べる事が出来ました。アメリカのお料理は、ローズさんの作ってくれた料理では、「ラタテューユ」が一番でしたが初めて食べたロブスターも、大きくてとてもおいしかったです。

二十七日、アメリカに来て五日目は、犬のターカーにもなつかれたようで、もうすっかりアメリカを楽しんでいました。この日は、ラジオ（アメリカでは午前中、日本では深夜）の生放送に出させて戴いたり、学校で実際の授業を見たりもしました。お昼はいつもハンバーガーで量も多いですが飽きませんでした。アメリカのピザとハンバーガーは、一生忘れられません。それと同時にアメリカの芸術センスも素晴らしいと思いました。独創的な作品が多く、また色づかいも様々でとても参考になりました。そして夜は、お互いの趣味で話し合ったり、ゲームをしたりとても楽しく、本当に楽しく過ごしました。

二十八、二十九日は、アメリカの様々な有名な所を見学しました。美術館にジャズ、クインシーマーケットでの買い物などたくさん楽しい思い出を作りましたが、その日、私が一番思い出に残っているのは、日本の料理をギャビンと一緒に作った事です｡カレーライス、玉子焼き。上手とは言えないのかもしれないけれど、笑いながら、楽しみながら作った食事はとってもおいしかったです。その他、茶道も成功してとても喜んでくれて、日本での練習の成果が出て、私もとっても嬉しかったです。そして、最後の日、笑って、でもとても寂しくて、お互いに抱きしめ合い別れました。この数日、みんなでボーリングしたり話したり、演奏したり､毎日がとても新鮮で､あっという間でした。その後行ったニューヨークはテレビで見たブロードウェイや自由の女神など、とても迫力があり、買い物もとても楽しかったですが、私にとっては、このホストファミリーと過ごした時間



ニューヨークの風景

がどんな物よりも、形に残らなくても、掛替えの無い思い出となりました。
　今回は入国から、お金、言語の違い、生活習慣の違いなど、とまどいもありましたが、とても素晴らしい経験になったと思います。
　私はこの数日間を一生忘れず、大切にして、日本でのこれからの生活の新たな一歩に活かし、いつかまたアメリカに、今度は胸を張って行けるように日々、頑張ろうと思います。

～CONCORD LOVE～

七飯高校２年　中村　美咲

私は心に大きく残っている２つのことを書きたいと思います。

まず１つは、コンコード・カーライル高校のみなさんと合同演奏をしたことです。去年の４月、姉妹校提携記念コンサートで初めて合同演奏をしたときに、とても悔しく悲しい思いをしました。それから私は二度とあんな思いはしたくない！という一心で勉強も部活も頑張るようになりました。また、コンコードに行く３ヵ月前から七高の生徒８人＋大沼中の生徒１人の９人で和太鼓の練習を始めました。和太鼓のメンバーに誘われたとき、自分で和太鼓を演奏して日本の伝統的な楽器、音楽の素晴らしさを伝えることができるんだと思い、すぐ参加することを決めました。練習は思っていたより大変で練習があった次の日は必ず体中筋肉痛になるほどでしたが、男爵太鼓のみなさんの熱い指導の下、諦めずにみんなで励まし合いながら頑張りました。

アメリカに着いた翌日から早速練習が始まりました。練習は２日間あったのですがなかなかカーライル高校のみんなに話しかけることができず言葉の壁を感じてしまい、ますます話かけられずに本番の日を迎えました。

まず、オープニングは和太鼓の演奏から始まりました。演奏曲の「花戦」に込めた思いを届けたい、今までで最高の演奏をしたいという思いで、一生懸命太鼓を打ちました。終わって、顔を上げるとたくさんの拍手をもらい、頑張ってよかったと思いました。その後カーライル高校だけの演奏と七高だけの演奏が無事に終了し、最後に合同演奏が始まりました。ステージにいる奏者と客席にいるお客さんが一体となり、楽しくのびのびと吹くことができて、みんなの心が音楽を通してつながっているような気がしました。全ての演奏が終わり、起立をしたとき、人生で初めてスタンディングオベーションというものを体験しました。あの感動は一生忘れることができないでしょう。合同演奏中、ずっと隣同士で吹いていたけど一言も話しをしていないし、それどころか目も合わせてくれなかったKevinという男の子に「Good Job!」と満面の笑みで言われ、嬉しくて私も負けじと「Good Job!!」と言い返しました。やはり音楽は想像を遙かに超える大きな力があると思いました。

バンドルームにて

２つ目はホームステイについてです。このことは私の中にあった不安の一番の要因でした。言葉は？食事は？洗濯は？ホストファミリーはどんな人？など…とにか

帰りの空港で

ホストファミリー宅リビングで

く全部が不安で心配でしたがそれは結局不要な悩みでした。私のホストファミリーはとっても優しくて、本当の家族のように接してくれました。言葉が通じなかったら辞書で調べたり、ジェスチャーで一生懸命伝えてくれました。いつも気にかけてくれていて、食事のことや洗濯のことを聞いてくれたり、退屈しないようにショッピングやボーリングや図書館に連れて行ってくれました。毎日朝と夜は家族全員で食事をとり､その日の予定や出来事を話してコミュニケーションをとっていました。日本の私の家では自分の好きなときに食べることが多く、朝に家を出る時間も帰宅する時間もバラバラで家族全員が１つの場に集まることが少ないので、とても新鮮でした。毎晩夕食のあとは、日本とアメリカのことをお互いに教え合ったり、テレビゲームやジェンガなど色々なことをして遊びました。コンコードで行ったパーティーやショッピングももちろん楽しかったですが、私にとってはホストファミリーと家でコミュニケーションをとることが何よりも楽しく、心の休まる時間でした。最後にはホストファミリーからたくさんのプレゼントをもらいましたが、それ以上にたくさんの愛と良い思い出をもらいました。今でもメールを交換していて近況を聞くと楽しかった思い出が蘇ってきてコンコードの町やホストファミリーがとても恋しくなります。

旅行から帰ってきて、私英語に対する考えが変わりました。「テストがあるから」「なんとなく便利そうだから」という気持ちで勉強していましたが、今では世界共通語である英語は多国の人と話し、コミュニケーションをとることができるし、自分の視野をぐっと広げることができるものだと思うので、もっと勉強をして上手くなりたいと思っています。

こんなに素晴らしく貴重でかけがえのない経験をする事ができたのは七飯の町長さんを初め、役場の国際交流の方々、コンコードの先生方、七飯高校の先生方、そしてアメリカと日本の家族のおかげです。この経験をこれからの自分の人生歩んでいく上でたくさん生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

また、いつかコンコードの方々と関わる機会があるならば、たくさん親切にしてもらった分、２倍、３倍…いや、５倍でお返ししたいです。

～海外派遣研修を通して心に残ったこと～

七飯高校２年　池畑 星里菜

私は、この海外派遣研修で色々なものを得たと思います。

アメリカに行く前の日まで、まだ私は「アメリカに行く」という実感がありませんでした。初めてのホームステイ。とても不安でした。言葉がちゃんと通じるか、ホストファミリーとうまくやっていけるか心配ばかりでした。

ホストファミリーと一緒に

アメリカに着くまでの間、飛行機の中で家から持ってきた、アメリカでの食事のマナーなどが詳しく書いてある本を見て、勉強をしていました。日本と違う所がやっぱりあって、実際にアメリカで食事をする時、本を見ていて良かったなと思ったことを覚えています。その他に、ｉＰＯＤで音楽を聴いていたり映画をみたり等、ほとんどは寝て過ごしましたが、そのせいか、１３時間という長い時間はあっという間でした。映画も、最新作の「パイレーツ・オブ・カリビアン」の「生命の泉」を見ることができて、とてもうれしかったです。他にも、「タイタニック」、「インディージョーンズ」等もありました。

長い時間をかけてやっとアメリカに着き、コンコードカーライル高校に向かうバスの中では、期待と不安でいっぱいでした。そして、カーライル高校に着いてバスから降りた時、みんなテンション高くて笑顔で歓迎され、とてもうれしかったです。

緊張したホストファミリーとの対面。友達や先輩たちが、目の前でホストファミリーとハグしているのを見て、さらに緊張が増しました。けれど、自分の名前が呼ばれて前に出た時、ホストマザーのディーノさんとホストシスターのアメリアが出てきてくれました。とても明るい方々で、今までのホームステイの心配や不安が無くなったことを覚えています。

それからみんなと別れた後、車に乗って家に向かいました。きっと大きい家なんだろうなと思っていたのが当たり、実際に見てその大きさに驚きました。車は４台あり、家は２階プラス地下１階で、とても広い敷地でした。まず、家の中に入るとホストファザーのスティーヴさん、ホストグランドマザーのクララさん、ペットの犬のフィッツィーが出迎えてくれました。「この家に来てくれてありがとう！」と、

言ってくれてとてもうれしかったです。フィッツィーは、人なつっこくて、すぐに私になついてきてくれました。フィッツィーは、家族にも大切にされていました。

私が借りた部屋は、地下のワンフロアすべて使わせていただいたので、とても広かったです。もちろん、バスルームもついていました。お風呂の習慣がないので、シャワーだけでした。カーテンを中に入れて入らないと、トイレまで水浸し、という大変なことになるので毎日注意して使いました。テレビも大きく、ベッドもふかふかでした。

日本からのおみやげに、函館の事が書かれてある情報雑誌や、七飯中学校、七飯高校、そして七飯町の写真の裏に付箋を貼って、その場所の名前を英語で書いたものや、風呂敷、日本のお菓子や折り紙などを渡しました。ディーノさんは、ポッキーが好きだったみたいでそのお菓子を渡した時は、喜んでもらえて良かったです。写真をクララさんに見せると、「緑が多く、美しい町だね」と言われ、そして七飯町から撮った函館山の写真を見せるとすごく喜んでもらえたので、良かったなと思いました。

ホームステイした家

はじめは、言葉が違う国でホームステイができて、コミュニケーションがとれるか、とても不安だったけど毎日が楽しかったし、聞き取りやすいようにゆっくり話してくれたり、朝起きる時間を紙に書いて説明してくれて、とても助かりました。その事を通して、もっと英語を勉強して英語を上手く話せるようになりたいし、もっともっとコミュニケーションをとれるようになりたいと心から思えました。もっと細かく説明したいのに説明できない、それが一番悔しかったです。

この研修を通して、日本とアメリカの違いがよく分かったし、何よりまたホームステイしたいし、コンコード町に行きたいと思えました。また行く機会があれば、英語をもっと上達してコミュニケーションを取れるようにしたいです。

たくさんの方々の支えてくださったお陰で、今回このような貴重な体験をすることができました。今回のことを将来に生かして、自信につなげたいです。

本当に、ありがとうございました。

～AMERICAN　LIFE☆about10days～

七飯高校2年　小石　明日美

９月２３日、楽しみ半分、不安半分ながらも待ちに待ったアメリカへ旅立ちました。初めて長時間飛行機に乗ったので体調を崩してしまいましたが、さまざまな機内食や友達との会話で楽しむことが出来ました。

私のホストファミリーは、昨年ホームステイの受け入れをした、ベンと一緒に住む家族のケイト・お父さん・お母さん・ベンと双子のクリスの５人家族です。いざホストファミリーと対面したら、とても緊張しました。しかし、みんな親切にしてくれて、ちょっと安心しました。

ホームステイ宅にて

このアメリカの旅での１番の思い出は…ホームステイです。２回ほど、コンコードの生徒の受け入れを経験したことがありますが、逆の立場になってホームステイをさせてもらうのが初めてでした。しかし、ショッピングに行ったり、ボーリングをしたり、可愛いレストランに連れて行ってもらったりしてたくさん楽しませてもらいました。また、26 日はケイトの誕生日でした。朝起きると、ポストにたくさんの手紙が入っていたり、テーブルいっぱいのプレゼントがあり、私はびっくりしました。そして、夜には家にたくさんの友達を呼んでパーティーをしました。パーティーの後は、お菓子を食べながら、トランプをしてお互いの国でのトランプの遊び方を教え合い、楽しい時間を過ごしました。言葉は通じなくても、手振り身振りで通じ合えたのが嬉しかったです。ホームステイ中は、英語があまり話せない私たちのために、辞書で日本語を調べて、日本語で会話をすることもありました。日本語で、果物の名前を覚えてくれて嬉しかったです。

学校は、七飯高校とは比べ物にならないくらい広いのに、休み時間が７分と短いのに驚きました。授業はみんな積極的に発言していて、七飯高校の授業風景とは違いました。ランチは種類が豊富で、自分で好きなものを選べました。サラダは、何人前？というくらい大きかったです。生徒はみんなフレンドリーで、すぐに緊張もほぐれて、楽しく過ごすことが出来ました。

この旅の１番の目的である、吹奏楽の演奏会は、今までにない短い期間の中で４回も演奏会があり、つらいと思っていました。……しかし!!!!今までに味わったことのないお客さんの盛り上がり具合に、テンションがあがりました。どの演奏会でも、スタンディングオベーションで、感動しました。合同演奏では、コンコードカーライル高

校の生徒で同じ楽器の男性２人に挟まれ、すごくドキドキしましたが、見た目とは違って、優しかったです。演奏面ではすごく迫力があって、勉強になることもたくさんありました。デンティーノ先生と小野寺先生の最後の合同演奏会でしたが、最高の思い出を作ることができ、先生方に感謝です。

ホームステイ先のベンとケイトとクリス

　そして、お別れの日･･･。
ホストファミリーのおかげで、ホームシックには全然なりませんでした。というより、日本に帰りたくありませんでした。ケイトは、朝食を食べている時から泣いていて、すごく悲しくなりました。ずっと涙を流すのをこらえていましたが、いざ、学校に着いてみんなとお別れとなると、どんどん、どんどん涙があふれてきてしまいました。何度も、お父さん、お母さん、ケイト、ソニアとハグをして、またいつか会えることを願いました。

　そして、あっという間にホームステイが終わり、コンコードともさよならをし、ニューヨークへ、旅立ちました。

　ニューヨークは、たくさんの高層ビルとたくさんの人々で、今までいたコンコードとは、全く違いました。ニューヨークでの一番は、やっぱり、『自由の女神』です。

自由の女神

あんなに間近で本物を見ることができ、何度もすごいすごい！！！と言っていました。自由の女神の中を見ることができたり、後ろ姿や足の裏まで見れて、すごい経験が出来ているんだとさらに､実感できました｡ニューヨークの街は、あまり清楚ではなく、想像以上にぎやかだったので、コンコードに戻りたいなと思ってしまいました。

このアメリカの旅で、町の代表として、学校の代表として、吹奏楽局の一人として、たくさん不安なことがありましたが、みんなに支えられ、一生の思い出を作ることができて良かったと思います。このような素晴らしい経験をさせてもらい、七飯町、コンコード町のみなさん、役場のみなさん、先生方、保護者のみなさん、そして訪問団のみなさんに感謝でいっぱいです。これからの生活や将来にこの経験を生かしていけるよう、さらに頑張っていきたいと思います。また機会があれば、是非もう一度コンコードへ行きたいです！

　本当に、ありがとうございました。

～七飯町海外交流研修に参加して～

七飯高校教諭　佐々木　孝道

昨年度、七飯町の協力のもとコンコードカーライル高校と七飯高等学校との間で姉妹校提携調印式が開催され、正式に両校の姉妹校提携が結ばれることになりました。

以前より、七飯高校吹奏楽局とコンコードカーライル高校スクールバンドを中心とし合同演奏会の開催、七飯高校への授業参観など生徒間の交流を行ってきました。しかしこちらからコンコードカーライル高校へ出向くという機会は、七飯町の中高生海外派遣事業の他になく、今回初めて本校吹奏楽局を中心とした訪問団が実現しました。私は七飯高校引率団および中高生海外派遣引率教員としてこの事業に参加させていただきましたが、このような研修の機会を与えて頂いたことにとても感謝しております。

私自身も今までアメリカには一度も行ったことがなく、生徒引率の立場で果たして大丈夫なのかという不安を抱えながら出発しました。約１４時間の飛行の後に、ボストンに到着し、最初に、昨年度調印式で来日した方々が迎えに来ており、いよいよ到着したという実感が湧きました。

幸いにして、私のホームステイ先は昨年来調印式でお世話になっている七飯町役場の寺谷さんと一緒ということで、少し気持ちが楽でしたが、まったく会ったことのない人のところでお世話になるということには正直不安がありました。しかし、コンコードカーライル高校で生徒が各ホストファミリーと対面している間に、ナンシーさん、そして旦那さんのジャックさんがにこやかに声をかけてくれてすごく安心したことを憶えています。こちらのご夫妻には滞在中はずっと家族の一員のように接して頂きました。

到着してすぐの対面式

翌日はまず、ジャックさんに近所の散策とコンコードカーライル高校のキャンパスを案内していただきました。到着した日は夜遅くであったため、暗くて学校の様子がよくわかりませんでしたが、初めて見るキャンパスは日本の公立高校とは違い、敷地はかなり広く、まるで日本の短期大学といったような印象を受けました。特にプールは学校の敷地内にありながら、町の方が利用しており、立派な町営プールという感じでした。午後にはオーチャードハウスの見学をさせていただきましたが、そこでは４名の日本人（お話する機会はありませんでしたが、生徒の保護者と思われる方々）がおり、通訳を兼ねて私たちの案内をしておりました。学校関係者だけでこれだけの日本語と英語のバイリンガルの方がいることを知り、様々なところで日本人が活躍しているということを実感しました。

３日目には本校吹奏楽局と CCHS バンドとのコミュニティーコンサートが開催されました。昨年、七飯町文化センターで両校による合同コンサートを開催して成功を収めたところですが、今度は姉妹都市であるコンコード町で合同コンサートを開くという異例のこと

が実現されました。まず、七飯高校の生徒による和太鼓演奏から始まり、CCHS, 七飯高校、合同演奏という順番で演奏が行われ、最後にはスタンディングオベーションという形で幕が下ろされました。一緒に練習する機会はほとんど皆無でありながら、国を超えて立派に成功させました。これは日頃の両校生徒の練習の成果であり、また本校顧問の小野寺教諭とデンティーノの先生の長年の信頼関係によるものであると確信できました。

七飯高校の演奏

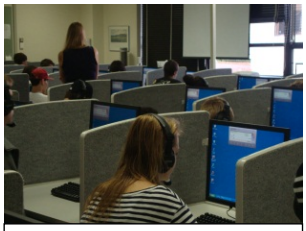
会場の様子

その日の夜には CCHS のカフェテリアでパティーが開催され、本校英語部による日本舞踊を披露しました。CCHS の歓迎の催し物はポップ調のダンスでしたが、大いに盛り上がり、そのうちに日本の中高生もそのノリに引き込まれ、一緒に輪になり踊りだしていました。私はその中にはとても恥ずかしく入っていくことはできませんが、アメリカの方々は先生、大人も関係なく一緒に楽しんでおり、文化の違いを感じました。

５日目にはコンコードカーライル高校の校舎内を案内して頂きました。まず最初に地元にも電波を発している放送局を案内して頂き、実際にその放送局から七飯町にメッセージを発信させてもらいました。中高生の保護者の方もこの放送を聞いて少し安心されたのではないでしょうか。次に私は、スペイン語の授業を参観させていただきました。授業は２０名程度で行われており、前半は教室でネイティブの教員と訓練を中心とした授業を行い、後半は日本でいうコール教室に移動しパソコンを利用した授業を行っておりました。

歓迎会でのダンス

積極的に発言する様子


外国語の授業

図書館もそうでしたが、まさに大学並みの設備で、この恵まれた教育環境がうらやましく思いました。また、英語の特別クラスでは私たち日本人学生も一緒に参加し、アメリカ人、日本人をミックスしたグループに分かれお互いの国のことについて話し合う機会が設けられました。グループごとにテーマを設定し日本とアメリカの共通点、相違点を見つけ出し発表するという段取りです。紙とマジックを使いながら、お互いにコミュニケーションをとっていましたがこれは難しいだろうと心配になりました。しかし、さすが生徒たちは若い、こちらの心配はよそに楽しそうにコミュ

英語の特別クラスでの様子

ニケーションを取り合い発表していました。引き続きグループでお互いの学校生活のことについて話し合う場面になりました。ここでは言葉の問題もあったと思いますが、アメリカ人学生は積極的に質問してきますが、日本人学生はなぜかあまり質問できず、私が一生懸命質問しているという状況になってしまいました。それでも生徒は楽しそうにコミュニケーションをとっており、貴重な経験ができたことと思います。

コンコードカーライル高校図書館

６日目、７日目にかけてはボストン美術館の見学、バークリー音楽大学の見学をしました。
ボストン美術館には昼食を含めて３時間近く滞在しましたが、それでも全部の見学はできませんでしたが、じっくり鑑賞したい人はおそらく１日では足りないくらいの大きさでした。また、バークリー音楽大学では、日本人サックス演奏者の寺久保エレナさんの演奏を聴くことができ、さらには彼女の話を聞ける機会に巡り合いました。とてもラッキーな時間だったようです。実は彼女が有名だというのは知りませんでしたが、名前を聞いて以前テレビで特集されていたことを思い出しました。思い出した瞬間からなぜか写真を撮っていた自分が恥ずかしいのですが。

その翌日には七飯高校訪問団は一足先に帰国し、私たち七飯町中高生派遣団は七飯町役場の宮田課長さんを団長として、１４名でニューヨークへと向かいました。今までは役場の方々や同僚などと一緒であったために安心していたところがありましたが、人数が少なくなりプレッシャーを感じました。それでも、宮田課長さん、ベン、町代表の方々がいるので何とかなるだろうと開き直りニューヨークへ向かいました。

ニューヨークに到着するとまず始めに中華料理店で料理を食べましたが、今までのアメリカ食ばかり食べていたのでとても懐かしい味に感じました。

その後、エンパイアーステートビルに３時間近くかけてやっと上ることができました。エックス線検査があるということを知らなかったのでびっくりしたのと、検査されたときに英語でボールが入っていると言われ No と必死に言いましたが、どうしてボールをかばんに入れていたらまずいのかと疑問に思っていたら、どうやら、ペットボトルのボトルが私にはボールと聞こえ、恥ずかしい思いをしました。翌日行った自由の女神でもエックス線検査が２か所に渡って行われました。さすがアメリカのシンボルであることを再認識しました。ニューヨークの最後の夕食ではたまたまその場にあったピアノで現地のガイドさんがピアノ演奏し、それにわせてベンがレットイットビーを歌い始め、思い出に残る一場面を演出してくれました。二日間のニューヨーク研修も無事に終え、１２日間に渡るコンコードへの旅が幕を閉じました。

ニューヨークにあるユニクロ

こうして研修を終えるとこのホームステイの意義が十分に理解できました。ホームステイだからこそ理解できる日本とアメリカの文化の違い、国境を越えた人とのつながりを肌で感じることができました。私にはこのようなチャンスは二度とないことだと思います。ましてやこの研修に参加できた中高生は困ったこともたくさんあったことと思いますが、他では経験できない貴重な体験ができたことと思います。今、この年代でこのような経験ができたことにより、いろいろな意味でこれからの進路や、世界観にも大きな影響をおよぼしたことに間違いありません。どうかこのような機会を頂いたいろいろな人々への感謝の気持ちを忘れずに今後に生かしてほしいと思います。

七飯町海外交流派遣団

もちろん自分自身にも多くの人への感謝を忘れないようにしていきたいと思っております。ありがとうございました。

～「交流」という枠のなかで出会うということ～

町民代表　高橋　理沙

はじめに　この派遣に参加させて頂けたことに、まず心より感謝申し上げます。コンコードで出会う方々は本当に皆温かく、どこまでも好意的に私たちを迎えてくださり、これまで交流に携わってきた多くの方々の素晴らしい積み重ねを感じました。出来事一つ一つ丁寧に報告したい気持ちですが、限られた分量の為、特に自身が関わった部分と、全体を通しての感想をもって、ここでの報告とさせて頂きたいと思います。

コンコード町と人々　コンコードと一言に言ってもその中に色々あるのは当然ですが、とにかく町の方々の生活水準に驚きました。お話する方は、社長や経営者級の方が多いように感じ、とにかく文化人、知識人という言葉が似合う方々でした。独立戦争の勃発の地でもあり、思想や哲学においてもその後大きな流れを生んだ地でもあり…そうした歴史上の威厳が、今も町の風情や人の姿勢に息づいているように感じました(そんな皆さんですが、クッキーやお菓子の話をするときは本当に子どものように無邪気なお顔になります！)。

イギリス兵の墓
（ノースブリッジ前の木陰に）

文化交流を通して　今回、私は七飯男爵太鼓創作会としてお声掛け頂き、派遣に参加しました。その中で、私なりに、目標と考えていたことが二つありました。一つは、七飯高校有志 8 名がコンコードで行う和太鼓演奏を成功させること。二つ目は、コンコード夕暮れ太鼓さんにお会いし、今後の交流の土台を築くことでした。一つ目について、これは本当に短期間の取り組みで、生徒さんは不安で一杯だったと思いますが、計 4 回のCCHSでの演奏は大きな拍手と声援に包まれました。いつも西洋楽器に触れている生徒さんが、国際交流という文脈で和楽器に取り組んだことの意味は、大きなものだったのではないでしょうか。今回の訪問では、七飯高校とCCHSブラスバンドによる合同演奏会も行われ、そこでの素晴らしい絆は、同じ楽器や同じ曲を通じて一つになれることを教えてくれたように思いますが、有志が取り組んだ和楽器への取り組みは、自分自身の文化を背負い、伝えるという点で、交流において、また違う大き

夕暮れ太鼓さんクラス風景♪
（後方男の子はヘッドフォン装

な意味を持っていたと感じます。
目標の二つ目について。コンコードには男爵太鼓との縁で生まれた和太鼓の活動があります。この活動は、CCHS で行われているコミュニティ
ークラスの一つでもあり、町の方々も参加する週一回の活動です。この日の練習場所は心地よい晴天の野外でした。日本の伝統楽器を楽しんで下さっている方々の笑顔や真剣な眼差しに胸が一杯になりました（耳栓やヘッドフォンをつけて練習する姿は新鮮で、合理的な所を感じました笑）。七飯の太鼓との合同曲の提案に対しては、是非やりたいと楽譜を受け取ってくださったため、実を結ぶよう進めたいです。

CCHS 図書館内の垂れ幕
David Carr の言葉

問題を「問う」環境　滞在中特に印象的だったものに、CCHS図書館で開催中だったフェアがありました。行われていたのは発行禁止本の展示。展示本にはライブラリアンの一言も付いていました。暴力や宗教、人種差別、死、セクシュアルな題材…日本の高校でこうした書籍を並べ、さあどうぞと生徒に委ねられるかを考えると、そう簡単ではないように思います。職員の方は、発行禁止ということはそれだけその本の存在意味が大きく、問うべき問題が含まれているということ。だからそれらをして問題提起を行うことは、壁は多くても重要なことだと話してくださいました。センシティブな話題を大人が隠すのではなく、むしろ明るみに出し、問う。こうした環境の中、受け手としての学生側は、「守られている」というよりは、自分の感覚や意見を常に試されて育っていると感じました。授業見学も行いましたが、先生が質問を言い終わる前から積極的な発言や挙手。ブラスバンドの合同演奏後の感想発表会でも、CCHSの学生さん達のアウトプットは滑らか。常に自分の意見を考えさせられるような環境と文化が埋め込まれていることを色々なシーンに感じました。

迎えてくださった方々
（右はホストファミリーのジョー

全体を通して～「交流」という繋がりの意味～　この派遣への参加が決まってから、「交流」というこの不思議な繋がりの意味を考えていました。これに対して２つ私なりに感じたことです…。滞在中、中高生から良くきいた言葉は、「意外と伝わる！」という喜びと自信の声。私の職場は外国の方が多く、英語を求められますが、むしろ無力感を感じる日々。容赦なく伝わらない毎日です。これを思うと、

今回伝わる経験ができたのは、自分に意外と英語力があったということではなく、交流という枠の中で、皆さんが私たちの言葉に心を傾け、理解しようと向き合ってくれた為なのだと思います。伝わり、分かり合えること、そこには必ず相手の努力や優しさがあることを、「交流」は教えてくれるのだと思いました。

また、コンコードで同い年の子が今の目標を教えてくれました。人を守るため、海兵隊になることでした。海兵隊は先頭に立って攻撃を行う最も重要な役。私は、何か揺すぶられたような気持ちを抱いて帰ってきました。それまで、笑いあい語りあい、同じ部分や違う部分を発見しながら、コンコードの方々と「わかりあっていく」実感を積んでいました。しかし、仕事とは違って肩書きなしに出会い、ありのまま触れ合い、笑顔を交し合った分、「交流」を通して築かれる繋がりは幸せなまま終わるばかりでなく、動き続ける世界（情勢）の中で、やるせなく苦しい想いも突きつけることを知りました。そしてこの苦しさこそ、交流において大切なものなのかもしれないとも。その国に一人、知っている人がいることで、遠いその場所は、その人の顔になります。新聞やニュースで、その場所を聞く度に、心の中でその方々が泣いたり笑ったりするようになります。日本で震災が起きた時、すぐに手紙での言葉や応援、支援を下さったコンコードの方々の想いが、きっとそうであったように…。こうした経験や繋がりで、世界そのものが変わるかどうか私には分かりません。ただ。一人一人の心に映る“世界”は、確かに変わるといえます。「交流」という、最初どこか浮いて見えたこの関わりの中にこそある、大切なもの。この枠の中でしか出来ないこと。それは、自分が思う以上に真に迫ったものであるのかもしれません。歓迎会でのデイビットさんの言葉が蘇ります…「遊んでいるように見えて、これは小さな国際外交。このことが、平和を築いていくんです」と。

Ground Zero より移されたモニュメント
人々が追悼のために訪れる（NY）

感謝を忘れず、これから先、この経験と共に生きていきたいです。そして七飯とコンコードの方々の絆が長く受け継がれ、深いものになるよう、自分に出来る形で貢献していきたいと思います。本当に有難うございました。

～七飯町海外交流研修を終えて～

町民代表　対馬　明子

最初に、このような素晴らしい機会を頂けたことに感謝申し上げます。

2004 年からコンコードカーライルハイスクール（CCHS）バンドメンバー2人ずつ3回､SF クラブメンバー1人計7人が我が家にホームステイしました。

今まで受け入れる事だけを考えていたので、まさか自分がコンコードに行ける事になろうとは考えてもいませんでした。嬉しくて今までに受け入れたコンコードの子供達にメールすると、2 組の御両親から会えるのを楽しみにしていますと返事を頂きました。初めての海外でもあり少し不安でしたが、コンコードの子供達とその家族に会えるのを楽しみに行ってまいりました。

長い長いフライトを経験してはるばるとやって来たという感じでボストン空港に着くと、前任の国際交流員のボビーをはじめコンコードの方々が迎えに来てくださっていてとても嬉しかったです。遅い時間にもかかわらず CCHS ではホストファミリーの方々に温かく迎えられそれぞれのホームステイが始まりました。そこでも去年我が家にステイしたケビンとジェイムスに会えて嬉しく、また、知っている顔が見えてホッとしました。

ホストファミリーと

私はロンとカレン夫妻のお宅にお世話になりました。カレンはソロー小学校の図書司書です。カレンと同じ学校の教員スーザンと CCHS の図書司書ロビンと一緒に 3 年前七飯町に来ており、今回初めてホームステイを受け入れてくれました。スーザンは同じ町民代表の後藤梨恵さんを、ロビンは七飯高校の桜井先生をそれぞれ受け入れてくださって、次の日みんながそれぞれ料理を持って来てホームパーティーを開いて下さいました。そのパーティーにはバイクで日本一周をしたと言う日本語がとても上手なクリスが両親と共に参加して下さいました。日本の私たちも、日本から持って来た材料で、おにぎりを握ったり皆さんの前で悪戦苦闘して焼いたジャンボお好み焼きをご馳走したり、抹茶を立てて味わっていただきながら、七飯町訪問の写真を見せていただいたり、色々とお話しができて良かったです。ここで食の文化交流もできました。

広さは七飯町の 3 分の 1、人口は半分くらいというコンコードの町は、大きなビルもほとんどなく緑豊かな素敵なところでした。家のまわりではチッ

コンコードセンター

プモンクというリスの小さいサイズの可愛い動物と毎日のように会う事が出来ました。また、車の運転のマナーのよさにも驚きました。環境が違うからですが、横断歩道に人が見えると必ず止まり、とにかく歩行者優先でした。この歩行者優先はボストンやニューヨークでは通用しないからと事前研修で、念を押されました。

「若草物語」の作者のルイザ・メイ・オルコットの当時そのまま保存されている家や、独立戦争発端の地であるノースブリッジなど歴史ある場所を見学しました。町の中心街では可愛い看板のある色々なお店でお土産を買いました。

また黄色いスクールバスで行ったボストン美術館ではゴッホやモネの絵画や古代エジプト、ギリシャ美術などたくさんの作品に触れ、ハーバード大学では歴史ある建物など大学生による案内で見学し、帰りには大学生協でお土産を買いました。

ダックボートツアー

今回カレンとスーザンが色々と後藤さんと私のために計画してくださいました。4人一緒にボートでランチしながらの川下りでは、ゆるやかな流れに爽やかな風を受けて素敵な時を過ごしたり、ボストンでは七飯町の皆さんと別行動でダックボートツアーという水陸両用車による文字どおり陸からと川からと歴史ある建物がたくさんの市内観光をさせていただきました。

そして、ソロー小学校ではスーザンの5年生のクラスを訪問したり、クラスの日本人の男の子ゆうきくんに校内を案内してもらい、お昼には校長室にてケリー校長先生とカレン、スーザン、後藤さん、ゆうきくんと私でサンドイッチとスィーツをいただきながらお話させて頂きました。その後、カレンの図書室で1年生の子供たちに「いっすんぼうし」をスクリーンで絵を見せながら、もちろんカレンが英語で、後藤

ソロー小学校図書室

ケビンとジェームス

さんと私が交代で日本語での読み聞かせをしました。続いてカレンが子供たちにはちまき作りをさせるのを手伝いました。白い紙に日の丸の赤い丸を張り、「日本」「一番」と書かせました。初めての日本語のそれも漢字を上手に書いて自分の頭に巻き、無邪気に喜ぶ姿はアメリカも日本も同じだと思いました。本当に可愛らしかったです。

小学校も高校もパソコンを使った電子黒板を使い、小学校の宿題もホームページを家で見るなどハイテク機器をあらゆるところに取り入れた教育がされていました。また図書室ではそういう機器の使い方なども教えたりしており日本の学校の図書室との違いを感じました。

今回の楽しみの一つが我が家にホームステイしたケビンとジェイムスの家族に会う事でした。ケビンの家族がジェイムスの家族と共に夕食に招待してくださいました。子供たちがお世話になったお礼にと感謝祭の伝統料理（ターキー、アップルパイなど）を手作りし、ご馳走してくれました。美味しかったです。それぞれの家庭にホームステイしている七飯高校生2人ずつも一緒でゲームをしたりとにぎやかで楽しかったです。ケビンの家では去年もホームステイを引き受けてくれたり、お母様のウェンディは七飯高校吹奏楽部、英語部の生徒のホームステイのお世話をしてくれたりと、七飯町との交流に携わってくれていて嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいでした。

もう一人、私にわざわざ会いに来てくれた方がおりました。我が家で最初にホームステイを受けた時のケイレブと2回目の時の弟ラフィのお母様カリンでした。子供たちは大学などでコンコードを離れているので、その近況を聞かせてくれたり、プレゼントを頂いたり、短い時間でしたがとても嬉しく楽しかったです。

あっという間に過ぎてしまったホームステイですが、今まで七飯町とコンコード町が長年積み重ねてきたことがあっての今があるとつくづくと感じ、コンコードに住む日本人の方々が通訳として協力してくださったり、コンコードのたくさんの方々の温かい心があってのものだと言葉で言い表せないくらいの感謝の気持ちでいっぱいでした。

私は言葉も不十分で思ったことの半分も言えませんでしたが気持ちは十分に通じ合えたと思います。お互いの違った言語、文化、習慣を受け入れ、心と心の交流が出来たような気がします。素晴らしい人達と出会い、貴重な

体験をさせて頂いたことに感謝し、私を心から温かく迎え入れてくれたロンとカレン夫妻そしてコンコード町のたくさんの方々にお礼を申し上げ、さらに七飯町の関係者の皆さん、そして今回ご一緒した皆さんにお礼を申し上げます。

この経験は私の宝物です。これからも七飯町とコンコード町の交流に何かしら携わって行きたいと思っております。ありがとうございました。

～海外研修レポート～

町民代表　後藤 梨恵

7 月半ばにこの研修のお話を頂き、事前研修では、派遣団 14 名で七飯とコンコードの歴史やアメリカでの生活について学び、期待と不安を胸に当日を迎えました。

普段子供達に英会話を教える中で、実際に英語圏の国で生活をし、確かめてみたいことが沢山ありましたので、今回の研修ではアメリカの生活に浸かり、今まで疑問に思っていたことは全部聞いて見て来よう！と心に決め、今後に生かせるようにとの思いで、挑みました。

～海外研修中の出来事～

成田から飛行機を乗り継いで 15 時間、コンコードに着いたのは夜 9 時でした。カーライル高校の外では沢山の生徒、保護者、先生達が「七飯町の皆さんようこそ」と言うメッセージを持って待っていてくれ、最初から感動してしまいました。

そして、私のホストファミリーであるスーザン(小学校の先生)、デイビット(弁護士)と初対面し、家に向かいました。家に入ると犬のカイラとすぐに仲良くなり、一瞬で癒されたのを覚えています。その日はあまり眠れませんでしたが、次の日からは毎日イベントが盛り沢山で、ベッドに着くと熟睡の毎日でした。

初日の朝は土曜日でしたが、スーザンが大学でも教えているとのことで、一緒に大学へ行き、授業を受けました。授業風景を見ていて感じた事は、生徒達がとても積極的で、次々と手を挙げて発言しています。これは大学だけでなく、小学、高校でも同じでした。

小学校訪問の時にも、生徒達は音楽、ダンス、スポーツ等、得意不得意関係なく、自分を表現する事にとても慣れている印象を受けました。

授業後、「お昼に何が食べたい？」と聞かれ、とっさに「ハンバーガー」と答えました。アメリカと言えばハンバーガーしか思いつかない自分がちょっと悲しかったですが、ハンバーガーレストランへ行き、時差ぼけの中、大きなハンバーガーと大きなクランベリージュースを頂きました。

その日の夜は町民代表の対馬さんのファミリーの家で、パーティーがあり、私は日本からお好み焼きの材料を持参していたので、キッチンをお借りしてお好み焼きを作りました。14 名分の巨大なお好み焼きを日本人 3 名で協力しながらひっくり返し、出来たときには大きな拍手が起こりました。対馬さんの作ったおにぎりと共にとても好評で、何度もおかわりをしている方もいて、嬉しかったです。初対面の方々と色々な会話をし、とても楽しい一時を過ごしました。

次の日から2日間、カーライル高校と七飯高校のジョイントコンサートがありました。スーザンが七飯高校の演奏に大変感動していて、私に「この感動をバンドメンバーに直接伝えたいんだけど､日本語でなんて言ったらいいの？七飯一番で伝わる？」と聞いてきて、七飯の生徒達とすれ違うたびに「ナナエイチバン！！」と言っていたのがとてもほほえましかったです。

今回は私の教室の文通希望の生徒達から手紙を預かっていたので、それを渡す事が一番の使命でした。さっそくスーザンのクラスへ行き、手紙と私の生徒達が作った日本の年間行事カレンダーを無事渡す事ができました。スーザンの生徒達はとても喜んでくれ、日本についての質問も沢山してくれました。

特に面白い質問で「漢字は点を一つ間違えるだけで全く違う意味になるの？」と言うものがあり、私は実際に大、犬、太などの漢字を書いて、それぞれの意味を説明すると、みんな興味深そうに聞いてくれました。

またスーザンからは「近々インターネットで子供達が直接顔を見ながら会話出来るようにしよう」と提案もしてもらいましたので、実現させたいです。アメリカの学校はとてもハイテクノロジーで、スーザンのクラスにもホワイトボードの真ん中に大きなスクリーンがあり、パソコンを操作しながら授業を進めていました。そして生徒への宿題もインターネットを使い、スーザンは家に帰ると家のパソコンで生徒からの宿題をチェックしてました。マサチューセッツ州は教育にとても力を入れているそうです。

そして、スーザンのクラスの中にはユウキという一人の日本人の男の子もいました。彼は私達に日本語で小学校の中を案内してくれ、最後のお別れの日にも姿を見せてくれました。いつか七飯に来たら家にホームステイに来てねと約束をし、お別れしました。

ホストファミリーとの語らいの時間は本当に楽しく、勉強になることばかりでした。スーザンは派遣団として一度七飯を訪れているので、七飯での思い出話や、日本とアメリカの違い(日本はメロンが異常に高い！、お弁当の手のかけ方がすごい！など)を朝食時や車の中で笑い合いながら沢山話しました。

デイビットからは、仕事柄か日本の犯罪や受刑後の事についての質問をされましたが、私はその辺りの知識が浅く、英語での説明もうまく出来ませんでしたので、これから調べてみようと思いました。うまくいった事もいかなかった事も、すべてが良い経験です。

又、3日目以降はコンコードの見所であるオールドノースブリッジやオーチャードハウスを見学したり、ボストンではハーバード大学の見学や、水陸両用バスに乗ってダックツアーにも参加しました。

ボストン観光のほとんどをスーザン､対馬さんとそのホストマザーのカレン(小学校図書館司書)と過ごしました。

私はスーザンとカレンに対して、普段の激務の中で、貴重な休日を私達のために使ってくれていることに申し訳ない気持ちにもなりましたが、スーザンが「カレンと職場以外でこんなにリフレッシュした時間を過ごした事はないから、これは私達にとっても素晴らしい時間なんだよ」と言ってくれたのが印象的でした。

またスーザンは私の今後に生かせるようにと、本屋さんで子供向けの発音の練習に良い

英語の絵本や、jack o lantan の作り方を教えてくれました。英語の本は、日本で買うと割高なので、帰りのスーツケースを気にしつつも沢山買ってしまいました。

そして緑豊かなコンコードには、chipmunk や squirrel 等の野生のリスが沢山いて、見かける度に喜んでいる私を見て、最後の日にスーザンがリスのぬいぐるみをプレゼントしてくれました。そのリスを chippy と名付け、これから日本国内を旅行するときは必ず連れていき、日本の風景とともにスーザンに写真を送る事を約束しました。

ジャックオーランタン

10 日間のホームステイの後、14 名の派遣団でニューヨークに渡りました。大人数からいきなり 14 名になり、急に不安になりましたが、お父さんの様な雰囲気の団長を筆頭に、終始なごやかな空気で過ごす事ができました。中高生は少し疲れ気味かな？と思いきや、元気に大都会を満喫している様でした。

宿泊したホテルは繁華街の真ん中にあり、真夜中でもパトカーや街の人の声が聞こえ、のどかなコンコードとはまったく違う、ここはニューヨークなんだと確認する瞬間でした。

～研修を終えて、これからの目標～

滞在中は色々な方の通訳の場面に沢山出会い、私にとってはとても興味深いものでした。一言で通訳と言っても業務的に的確に伝える時、話し手の想いや背景をうまく読み取って要約して伝える時など、単に語学力だけではなく、色んな所にアンテナを張る必要があると感じました。この事は今後の自分自身の勉強のための大きな動機になりました。

今回の研修では、本当にこれ以上はない程の歓迎を受け、感動的な事が沢山ありました。ホームステイの経験は昔 1 度ありますが、通常はここまでの歓迎を受ける事はまずないと思います。スーザンはよく「私が七飯を訪問した時、七飯の人達に本当に親切にしてもい、素晴らしい経験をする事が出来たの。だからあなたにも同じ様な経験をしてほしいんだ。」と言っていました。長年積み重ねてきた両町の交流に、こうやって参加出来た事は本当に光栄ですし、今後は私も町民として出来ることをお返ししていきたい気持ちでいます。

また、国際交流のあり方についても深く考えさせられるきっかけになりました。
言葉が通じなくても気持ちが通じ合えた瞬間を沢山目にしましたし、言葉が通じる事で、より深く理解し合える事も改めてわかりました。私を含め、同行した中高生達も、これからきっとアメリカの記事や TV を目にするたびに、お世話になった人達の顔が浮かぶでしょうし、世界を身近に感じる事が増える事でしょう。

これからの自分の役割は何かな～と色々考え、英語を学ぶ楽しさ、その先にある可能性を沢山伝えていきたい気持ちがさらに強まりました。

スーザンとの話のなかで、「今回始まった両生徒の文通交流のなかから、いつかお互い

の生徒が派遣生として会う事が出来たら素敵だね」と話をしました。
　この小さな交流の積み重ねが、世界の平和に少しでも繋がっていてくれる事を願いながら、今後も出来る限り交流を続けていきたいです。
　今回の研修にあたり、サポートしてくださったコンコードの方々、役場をはじめ七飯町の方々、七飯高校の方々に深く感謝します。ありがとうございました。

～７３名とともに「おもてなし」のコンコードへ～

七飯町総務課長　宮　田　　東

今年の訪問団は、例年行われている８名の中高生を始めとする、町民と引率教員を含めた１４名の海外交流派遣研修訪問団（９月２３日～１０月４日、１２日間）と昨年４月にコンコードカーライル高校と姉妹校の提携を結んだ七飯高校の訪問団５９名（９月２３日～１０月２日、１０日間)、合わせて７３名の大訪問団となりました。

過去に例を見ない今回の大訪問団の目的は、コンコードカーライル高校のブラスバンドと七飯高校吹奏楽局との合同演奏会の成功並びに、より深くコンコード町民との絆を深めることでした。

出発当日は、台風１５号の影響を心配しつつ当日を迎えましたが、訪問者全員の日頃の精進が良かったのか天候に恵まれ、保護者や家族の皆さんの見送りのなか、７３名の訪問団一同は心を弾ませて函館空港を８時４５分に出発しました。

羽田空港に到着後は、貸し切りバス２台で成田空港に向かい、１５時５５分発のミネアポリス行きに搭乗したものの１１時間ほどの飛行時間で朝、昼、晩の３食の食事サービスがあり、現地時間１２時５５分無事ミネアポリスに到着しました。

１３時間の時差のため、寝たのかどうか今一の睡眠不足と興奮のなかで、多少迷いながらも難関の入国審査を受け、１５時２０分発のボストン行きの飛行機に乗り換え、１９時１０分ボストンローガン空港に到着しました。

長旅で疲れ気味でしたが、小雨の中、コンコードの皆さんが温かい笑顔で迎えていただき、大変嬉しく、感激いたしました。これが、これまで１４年間に亘る交流を積み重ねてきた成果なのかと驚き、改めて認識させられました。感謝、感謝、感謝の思いでした。

その後、２台のスクールバスでコンコードカーライル高校に行き、カフェテリアでホストファミリーと無事に対面を果たし､７３名それぞれのホームステイ先へと向かいました。

私がお世話になりますホストファミリーの車が、偶然にも私と同じトヨタプリウス、そのせいかもしれませんが、初対面にも拘らずから、共通の話題ができ、これから悪戦苦闘するであろう英会話に一抹の不安の中、一方で大いに楽しみたいと相反する気持ちになりました。

コンコードの概要については、これまでの長い交流を通して多くの方がご存じかと思いますので割愛させていただきますが､七飯町とさほど変わらない気候と聞いていましたが、例年の訪問より３週間早い訪問時期のせいか、１週間の滞在中天候にも恵まれ暑くて半袖

が似合う気候でした。自然の中に住宅が点在し、リスなどの小動物もよく見かけるなど別荘地のような雰囲気を醸し出しています。

２日目の午前中、ホストファミリーの車で町を案内していただきましたが、事前には聞いていましたが改めてお屋敷風の邸宅が多いのにはびっくり、歴史を感じながら教養の高い文化人が多いのでしょうか、大仰天です。さらに非常に驚いたことがありました。複雑な交差点が多いにも拘らず、日本では考えられないほど信号機や横断歩道が少なく、歩行者が横断する場合は歩行者優先で停車するのが当たり前、車同士は譲り合いの精神、登下校時のスクールバスが停車した場合でも追越し禁止など徹底されているが、よく交通事故が起きないと、未だに不可解でコンコード町民のモラルの高さに敬服しています。

ホストファミリーのビル、クリスさん

今回の訪問は、コンコード町の交流窓口が民間人中心で限られた有志の方々での受け入れと時間的に訪問が難しいことから、タウンハウスへの訪問を残念ながら割愛させていただきました。主な活動は、合同演奏会、七飯高校吹奏楽局の演奏（一般、全校、小学生など）､七飯和太鼓の披露､日本舞踊の披露､コンコードカーライル高校の見学及び授業参加、コンコード町内のオーチャードハウスやオールドノースブリッジの見学、町外ではハーバード大学（構内見学）、バークリーカレッジ（構内見学・ジャズ演奏鑑賞）、ボストン美術館見学などでありました。

特に、今回の最大目標である合同演奏会や七飯高校吹奏楽局の演奏披露では、演奏終了後即座にスタンディングオベーションが沸き起こり、拍手が鳴り止まない中でのアンコール曲の披露と、恥ずかしながら感動で涙ぐんでしまいました。会場には、在ボストン日本国総領事館首席領事の渡邊さん、コンコード町の議長さんや教育長さんなどもお見えになられ、大変お褒めの言葉をいただきました。また、海外交流派遣研修訪問団では、コンコードカーライル高校内のスタジオにおいて、メンバー全員がローカルではありますが、ラジオに生出演し、七飯町のＰＲに努めました。中高生の度胸には、ただただ感心させられました。

高校内ラジオ局にて

個人的には、２回公式的に挨拶させていただきました。合同演奏会後のＢＢＱパーティと翌日の公式交流昼食会ですが、ともに悪戦奮闘のカンニングペーパーを見ながらの英語でのスピーチをさせていただきましたが、原稿を見ながらでも発音も悪く、噛み噛みも多く帰国後も反省の毎日です。

コンコード町を省みると､歴史を感じさせる町並みや自然を愛する姿勢が強く感じられ、テレビなどの映像でよく見られるアメリカの雑踏的な面がなく､住みやすい住環境でした。特に､澄み切った夜空は満天の星が今にも落ちてきそうな雰囲気を醸し出し感激しました。

コンコードの方々が、初対面にも関わらず、とても温かく親切に対応していただけることは、住環境の良さからきているのかなと感じました。

今回の訪問団の中高生は、このたびの経験を生かし、いつかは海外で活躍してほしいと願いますし、引率教員を始めとする一般町民の皆さんは、目的意識をしっかりと持った行動を七飯町の町づくり・人づくりに生かしてほしいと願います。

訪問団集合写真（自由の女神前）

今回のコンコード訪問で感じたことは、文化や生活習慣、言葉の違いがあるにも関わらず、これまでの交流がしっかりと根付いており、その輪が確実に広がってきていることです。

このことは、７３名の大訪問団が所期の目的をしっかり果たし無事に帰国できたことが裏づけとなったと言えるでしょう。

来年の平成２４年には、姉妹都市交流１５周年を迎えますが、さらなる絆と友愛を深めながら交流し続けていくことが未来を担う子どもたちにとって意義あることだと感じました。

今回の海外交流派遣研修訪問団及び七飯高校の訪問団、７３名の受け入れに当たり大変お世話になったコンコードの皆さんに感謝とお礼を申し上げますとともに、このたびの大訪問団の派遣にご支援ご協力いただいた関係各位にお礼を申し上げ派遣研修報告といたします。

コンコードの皆さん、温かい「おもてなし」どうもありがとうございました。

～コンコード訪問団レポート 2011～

七飯町国際交流員　ベン・ミリン

72 名を 6000 マイルの旅へ連れていくことは簡単なことではありませんが、役場の皆さんが快く引き受け、この企画を準備してくれたことに私は驚きました。しかし、後で驚くべきはでなかったと思いました。

去年の 6 月に私の両親と弟が七飯を訪れた時に大変な歓迎を受けました。七飯で会ったすべての人達が私の家族に温かい歓迎をして下さり、また、たくさんのイベントなどが計画されていましたが、どれも本当にスムーズに進みました。完ぺきに準備してあると同時に私たち家族のお願いなども親切にきいてくれ、私はそれから七飯町役場で働けることは素晴らしいことだと思いました。きちんと準備されている中でも柔軟な対応ができる仕事を見て、私も社会人として将来のために習いたいと思いました。今回のコンコード訪問もとても順調に進み、感激しました。

これからの訪問について 2 つほど提案をさせていただきたいと思います。1 つ目は、ニューヨーク視察の時にバスに乗っている時間がとても長いので減らしたほうがいいということです。滞在時間が 2 日弱と限られている中で観光をしなければないのは分かります。しかしながら、5～6 か所をバスで通り過ぎるだけより、1～2 か所をゆっくり歩いて観光したほうがより深くその観光地の意味する物が分かると思います。

2 つ目は、訪問団にニューヨークで外国の食べ物を食べる機会がもっとあったほうがいいと思います。確かに約一週間ホームステイをして、日本食の味噌汁やおにぎりなどが恋しくなってきているかもしれません。しかし、ニューヨークは世界でも有数の美味しいレストランが集まる場所です。全く食べないほうがいいという訳ではなく、予算が許す範囲で、より“ニューヨークらしい”という食事を食べられたらいいと思います。ピザやハンバーガーなどを食べに連れて行ってあげたかったです。

また、世界のニューヨークですから、宮田課長が言っていた、最後の夜にジャズなどを見学に行くこともとてもいい案だと思いました。2011 年の研修中にはかないませんでしたが、来年度の訪問計画に入れることができれば最高の旅になると思います。

2011 年のコンコード、ボストン、ニューヨークの訪問団の一員として加えて頂けたこと大変感謝しています。この旅を通じて学んだことは何にも代えられない、価値のあるものです。そして何よりも、この素晴らしい姉妹都市交流の中で、素晴らしいメンバーの皆さんと共に学べたことに感謝します。

七飯町中高校生海外交流派遣研修要綱

（目的）

第１条　この要綱は、教育、文化、スポーツ等による交流を通じ、国際理解とグローバルな国際的視野に立つ豊かな人材を育成することを目的として、七飯町立中学校並びに北海道七飯高等学校（以下「公立学校という。」）に在学する中高校生を、本町の姉妹提携都市、米国マサチューセッツ州・コンコード町に派遣することに関し必要な事項を定める。

（派遣資格及び人員）

第２条　公立学校に在学する中高校生で保護者から承諾を得た者及び町立小中学校並びに北海道七飯高等学校（以下「各学校」という。）に勤務する教員とし、員数は次項のとおりとする。

２　公立学校の中高校生については、次のとおりとする。

（１）七飯町立中学校　　第２学年の生徒　５名

（２）北海道七飯高等学校　第２学年の生徒　３名

３　教員については、各学校の推薦者から１名を選考する。ただし、町長が特に必要と認める場合は公立学校に勤務する教員の中から直接１名を指名することができるものとする。

（研修内容）

第３条　米国マサチューセッツ州・コンコード町及び米国東部地域内における交流研修とする。

２　研修期間は９日から１１日間の範囲とし、コンコード町及び近郊においてのホームステイ、学校での授業体験を主に交流研修するものとする。

３　教員については、現地学校において授業を行うものとする。

（参加要件）

第４条　交流研修の参加要件を次のように定める。

（１）心身ともに健全で、協調性に富み、規律ある団体行動がとれる者

（２）海外での交流研修に熱心で、帰国後積極的に交流研修事業に協力できる者

（選考）

第５条　学校長は次のとおり派遣者を選考するものとする。

（１）全校生徒並びに教員に募集の趣旨を公表し、応募のあった者から適格者を選考する。

（２）学校長は、選考した者について町長に推薦するものとする。

（３）町長は、推薦のあった者から派遣者を決定するものとする。

（派遣費用）

第６条　派遣に係る費用として、交通費、宿泊料、旅券代、渡航手数料、旅行保険料等の経費について町が負担し、参加者負担金を３万円とする。

（事前研修及び事後の活動）

第７条　海外交流研修の目的を達成するため、故郷七飯町やコンコード町の特色、文化、海外旅行の心構え、英会話等を事前に研修するものとする。

２　派遣者は、帰国後に研修の成果としてレポートを提出するものとする。

３　町は、広報紙、ホームページ等により研修の成果を広く住民に周知するものとする。

（補則）

第８条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附　則

この要綱は、公布の日から施行する。

七飯町民海外交流派遣研修要綱

（目的）

第１条　この要綱は、文化、スポーツ、産業、経済等による交流を通じ、国際理解とグローバルな国際的視野に立つ豊かな人材を育成することを目的として、本町の姉妹提携都市、米国マサチューセッツ州・コンコード町に町民を派遣することに関し必要な事項を定める。

（派遣資格及び人員）

第２条　派遣者は、町内に住所を有し３年以上居住している者とする。

２　派遣者は、１８歳以上とし高校生を含まないものとする。

３　派遣者が学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第１条の規程による大学等の学生で町外に住所を有している場合は、保護者の住所要件を勘案する。

４　派遣者の数は、予算の範囲内とする。

（研修内容）

第３条　米国マサチューセッツ州・コンコード町及び米国東部地域内における交流研修とする。

２　研修期間は９日から１１日間の範囲とし、コンコード町及び近郊においてのホームステイにより、文化、スポーツ、産業、経済等について、交流研修するものとする。

（参加要件）

第４条　交流研修の参加要件を次のように定める。

（１）心身ともに健全で、協調性に富み、規律ある団体行動がとれる者

（２）海外での交流研修に熱心で、帰国後積極的に交流研修事業に協力できる者

（選考）

第５条　町長は公募により応募のあった者から面接試験により適格者を選考する。

（派遣費用）

第６条　派遣に係る費用として、派遣者１人１回について、交通費、宿泊料、旅券代、渡航手数料、旅行保険料等の経費について町が負担し、参加者負担金を二分の一とする。ただし、特定の目的を定め、特に町長が認めた場合はこの限りでない。

（事前研修及び事後の活動）

第７条　海外交流研修の目的を達成するため、故郷七飯町やコンコード町の特色、文化、海外旅行の心構え、英会話等を事前に研修するものとする。

２　派遣者は、帰国後に研修の成果としてレポートを提出するものとする。町は、広報紙、ホームページ等により研修の成果を広く住民に周知するものとする。

（補則）

第８条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附　則

この要綱は、公布の日から施行する。

函館新聞　２０１１年（平成２３年）７月１３日（水）

米国の文化楽しみたい

七飯の訪問団抱負　9月に59人がコンコードへ

アメリカでの抱負を語る七飯高校の生徒

【七飯】9月にアメリカ・マサチューセッツ州コンコード町に向かう町の姉妹都市交流訪問団の事前研修会と説明会が11日、町文化センターで開かれた。町の公式訪問団の中学生らと姉妹校のカーライル高校を訪問する七飯高校の生徒、保護者らが参加。「アメリカの文化を楽しんできたい」とそれぞれが抱負を語り、期待に胸を膨らませた。

訪問団は中学生5人を含む町の海外交流派遣研修訪問団14人と、七飯高校の吹奏楽局や英語部の生徒ら姉妹校交流訪問団の59人を予定し、七飯からの派遣では、過去最大の規模となる。一行は9月23日に渡米し、10～12日間の日程で、現地でホームステイをしながら、交流を深めるほか、同校の吹奏楽局は、カーライル高スクールバンドと合同演奏会を開く。

中宮安一町長は「相手の目を見て話せば、大体のことは通じる。しっかりアメリカを楽しむことが、コンコードと七飯の友好を一層深くすることにつながる」と激励。小越康雄校長は「昨年、姉妹校提携を結び、両校がつよいきずなで結ばれていることを確認した。多くの関係者の尽力で、訪問派遣が実現することになった」とあいさつした。

渡米する生徒たちは自己紹介でそれぞれ、「一生の思い出を作りたい」「演奏技術を学んできたい」などと決意を語った。町の公式訪問団参加者は今後、七飯やコンコードの歴史などを学ぶ研修会を経て、9月の渡米に備える。

（今井正一）

七飯高 23日からコンコード町訪問

米姉妹校と深まる交流

【七飯】昨年4月に姉妹校提携を結んだ七飯高（小越康雄校長、357人）と米国マサチューセッツ州コンコード町のカーライル高の交流が活発化している。今月23日からは吹奏楽局などの1～3年生計55人がカーライル高を訪問。「友好を深める絶好の機会」と、生徒たちの学習意欲も高まっている。（則定隆史）

今春、インターネット上で月2回ほど発行されるカーライル高の学生新聞「The Voice」に七飯高生が英語で書いた記事の掲載が始まった。姉妹交流をきっかけに実現した、生徒の声を届ける取り組みの一つだ。初回に取り上げたテーマは東日本大震災。英語部の志甫谷瞳（しほや）さん（3年）が「深刻な問題だけど、事実を正しく伝えないといけないと思った」と、被害の実態や復興への願いをまとめた。これまでに計3人が担当し、吹奏楽局の活動や五稜郭の歴史などを紹介した。

カーライル高訪問に向け、日本舞踊の練習に励む七飯高の生徒たち

学生新聞に生徒が寄稿 「いか踊り」など披露

コンコードは東海岸のボストンに近い、人口約1万5千人の町で、1997年に七飯町の姉妹都市になった。これまでも町主催の学生派遣は行われていたが、今回の訪問は姉妹校提携を記念した七飯高として初の単独事業で、参加者数も過去最大だ。

訪問するのは吹奏楽局、英語部、生徒会の生徒たちで、渡航費の大部分は個人負担。カーライル高の生徒宅にホームステイし、授業やクラブ活動に参加するほか、ボストンでの観光なども行い、10月2日に帰国する。

生徒の大半は初めての海外。文化や言葉の壁を乗り越え、視野を広げてもらうのが狙いで、担当する桜井みち教諭は「世界に目を向け、将来に大きな可能性があることを感じてもらいたい」と期待する。

現地では、吹奏楽局が地域住民、カーライル高の全校生徒、地元小学生を対象に計4回のコンサートを行い、カーライル高との合同演奏も。高橋愛里香（えりか）局長（3年）は「人生で一番の大舞台で、わくわくする。力を存分に見せたい」と意気込みを語る。

また、歓迎会では英語部と生徒会が、練習を積んだ日本舞踊を披露するほか、函館名物「いか踊り」で交流する。いか踊りは過去の派遣事業で披露した際、カーライル高の生徒に大人気で「両校がひとつになるためには外せない」と先方から強い希望があった。

カーライル高校は約1200人の生徒数を誇り、同州のハーバード大やマサチューセッツ工科大への進学者もいる有数の進学校。生徒会長で英語部の田村紗英（さえ）さん（3年）は「日本に対する印象や意見を聞いてみたい。文化や習慣の違いを体感できるのも楽しみ」と話している。

教育ひろば

函館新聞　２０１１年（平成２３年）９月１８日（日）

アメリカでの目標を語る訪問団員

23日からコンコードへ

積極的に交流したい

七飯訪問団　渡米前に壮行式

【七飯】町の姉妹都市アメリカ・マサチューセッツ州コンコード町に向かう姉妹都市交流訪問団の壮行式が16日、町文化センターで行われた。七飯からは過去最大となる73人が23日から10～12日間の日程で渡米。参加する中高生らは「積極的にコミュニケーションを図りたい」などと抱負を語り、希望に目を輝かせていた。（今井正一）

中学生5人を含む海外交流派遣研修訪問団（団長・宮田東総務課長）14人と、七飯高校の吹奏楽局、英語部の生徒ら59人は、姉妹校交流訪問団（団長・小越康雄校長）として渡米。コンコード町ではホームステイをしながら滞在するほか、研修訪問団はニューヨークも訪れる。吹奏楽局は現地時間の25日にカーライル高のスクールバンドとのジョイントコンサートを開く。

一行は、7月からコンコードや七飯の歴史、文化の違いを学んだり、現地で披露する和太鼓や日舞など、事前研修を重ねてきた。壮行式で中宮安一町長は「皆さんの気持ちはもうアメリカに向いているのか、自信に満ちあふれている。しっかりと楽しんでくることが、七飯とコンコードの一層の親善につながると確信している」と述べた。

また、小越校長は「昨年、カーライル高校と念願の姉妹校提携を結び、未来に続く友情と信頼を築こうと確認した。多くの地域の支援にお礼を申し上げたい」と述べた。

このほか、各中学校長らか

海外

姉妹都市交流 絆深め

「総立ちの拍手に感動」

米国訪問団が帰国報告会 七飯

【七飯】9月に町の姉妹都市、米国マサチューセッツ州コンコード町に派遣された町民訪問団が10日、町文化センターで帰国報告会を開き、「心を通わせ、交流を深めることができた」などと成果を語った。

町の訪問団派遣は17年目。本年度は9月23日から10月4日まで、中高生を中心に計14人が参加したほか、同町咲さんはカーライル高との合同演奏会を振り返り、「人生初のスタンディングオベーションをもらって感動した。これからもっと英語を勉強したい」と話した。（則定隆史）

校提携を結ぶ七飯高も独自に初めて生徒約50人を派遣した。

報告会では、七飯高の生徒3人が写真をスライドで上映しながら現地での活動を紹介。吹奏楽局2年の中村美

コンコード町での交流の様子を紹介する七飯高の生徒たち

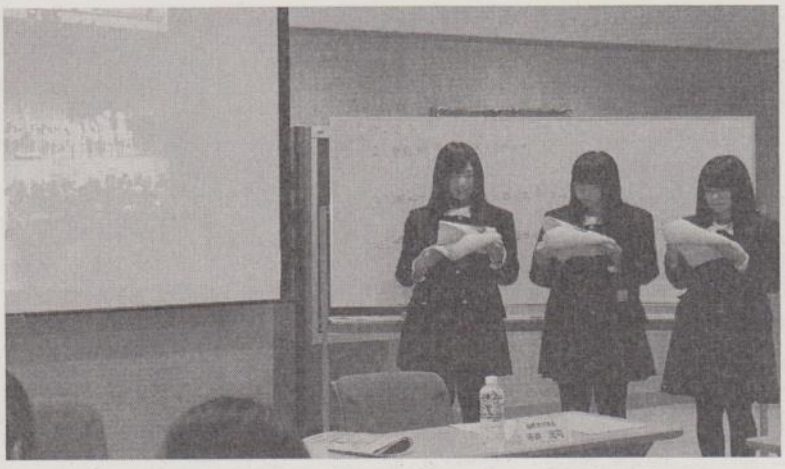
函館新聞　２０１１年（平成２３年）１１月１２日（土）

コンコード訪問団の生徒ら帰町報告会

姉妹都市交流 友好さらに

演奏会で盛大な拍手「涙出た」

アメリカ滞在の様子を報告した訪問団参加者



【七飯】町の姉妹都市アメリカ・マサチューセッツ州コンコード町を訪問した姉妹都市交流訪問団の海外交流派遣研修事後報告会が10日、町文化センターで開かれた。七飯高校吹奏楽局とカーライル高校とのジョイントコンサートをはじめ、現地の文化や滞在の様子を写真で紹介。アメリカの空気を肌で感じてきた生徒らは「これからもコンコードとの関係が深まってほしい」「またアメリカに行きたい」などと語った。（今井正一）

訪問団は9月23日に出発。町内の中学、高校生、町民代表者ら14人を含め、昨年、カーライル高校と姉妹校提携を結んだ七飯高校の生徒ら、過去最大規模の73人が渡米。10～12日間、ホームステイをしながら滞在し、ボストンやニューヨークへも足を運んだ。

報告会では、七飯高校の生徒3人が滞在中の様子を写真で紹介。現地で4回開いたコンサートで、観客から盛大な拍手を受けたことを「言葉の壁はあっても音楽に壁はなかった。人生初のスタンディングオベーションに涙を流した」と振り返った。

中学生らは、日本との食文化、習慣の違いや、積極性が身についたことなど、訪問で得た経験を報告。大中山中学校の松浦水乃緒さんはホストファミリーにうまく感謝を伝えることができなかったとし、「将来、伝えきれなかった思いを伝えに行きたい」と話していた。

初の姉妹校訪問を実現した同高校の小越康雄校長は「個人的にも夢のような時間を過ごした。七飯をアピールし、姉妹都市交流の目的は果たせた。生徒たちにはこれからの大きな財産となったと思う」と話した。また、団長を務めた宮田東総務課長は「73人の大訪問団が無事に帰ってくることができ、安心した。生徒たちは物おじもせず活動し、相当成長した。これまでのコンコードとの積み重ねが今回の成果」と話し、来年のコンコードからの訪問団受け入れに協力を求めた。

２０１１(平成２３)年度　七飯町海外交流研修報告書

アメリカマサチューセッツ州コンコード町姉妹都市交流事業

平成２４年２月発行
編集・発行　七飯町総務課国際交流係
〒041－1192　北海道亀田郡七飯町本町６丁目１－１
TEL　０１３８－６５－５７９２